

学びや交流、研究を止めない！ withコロナの グローバル戦略

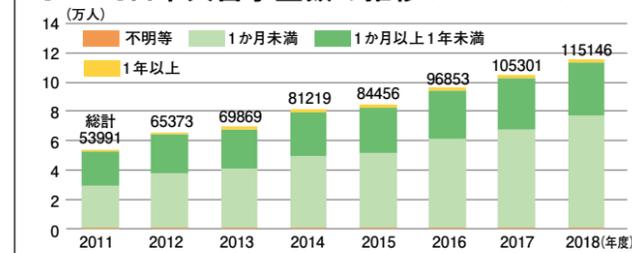
ほぼ全ての大学が取り組んでいたであろう、グローバル教育。その基幹である海外との人的交流が、止まっている。グローバル人材を求める産業界も、大学間の国際競争も、その空白期間を待ってはいくれない。教育と研究の国際化を継続するために、今、何ができるか。

【図表1】文部科学省による国際化施策の変遷



*文部科学省の資料と取材を基に編集部で作成

【図表3】日本人留學生数の推移(留学期間別)



*大学間交流協定等に基づく日本人留學生数(大学等が把握している数)
*教育再生実行会議「高等教育ワーキング・グループ(第2回)参考資料」を基に編集部で作成

【図表2】外国人留學生数の推移(所属機関別)



*[総計]は、高等教育機関と日本語教育機関の合計。「うち高等教育機関」は、大学、短大、高専、専修学校(専門課程)を指す
*教育再生実行会議「高等教育ワーキング・グループ(第2回)参考資料」を基に編集部で作成

【図表5】THE世界大学ランキングにおける日本の大学の状況



【図表4】学位取得を目的とする日本人留學生の推移



*2012年までは外国人学生(受け入れ国の国籍を持たない学生)、2013年以降は外国人留學生(勉学を目的として日本から他国に移り住んだ学生)を統計対象とする。
*教育再生実行会議「高等教育ワーキング・グループ(第2回)参考資料」を基に編集部で作成

コロナ禍で国際交流がストップ

「withコロナ」の今後を見据えたとき、グローバル戦略の何を残し、どこまで形を変えるべきなのか。国際化をリードする立場である、「SGU」および「大学の世界展開力強化事業」採択校に聞いたアンケートを基に、日本の大学が抱える課題を整理したい。

まず、大半の大学が国際化が停滞している認識を持ち、新たな戦略の検討の必要性を感じている【図表6】。戦略全体あるいは複数の達成目標の見直しを考えている大学が約8割【図表7】で、「3大学が同時に交流できるオンライン授業システム」「アウトカムベースの目標設定」などが検討されて

レベルでの競争においては後退しているのが自然だろう。こうした状況下で起きた今回のコロナ禍が、これまで堅調だった人的交流の「量」の部分に水を差すことになった。他方コロナ禍は、オンラインによる国際交流の可能性をはじめ、多くの気づき、新たな常識を世界中の大学にもたらしている。日本の大学が国際化を止めることなく、かつその質を高め、これまで以上の競争力を獲得するには何が必要だろうか。

戦略の見直しに向けて立ち足るべき課題は？

「質」の課題を抱える中 コロナ禍が「量」に打撃を

そもそも大学の国際化は何のためか? 「少子高齢化、地方の衰退といった日本の問題を解く鍵は、グローバル人材育成にあり、これは死活問題だ」(文部科学省)というように、「閉じた日本マインド」から「開かれた日本マインド」へのシフトは、自分たちのため、と言える。これを出発点に大学の国際化の進捗を文部科学省の施策をベースに振り返っておこう【図表1】。

日本社会のグローバル化をめざし、2008年度に他省庁や企業なども巻き込んだ「留學生30万人計画」がスタート。2009年度からは同計画の一環として、優秀な留學生が集まる知的拠点の形成を目的とした「グローバル30」も加わる。これらの施策により、留學生の受け入れ数は2013年度以降増え続けてきた【図表2】。2019年度は31万人を超え、目標を達成している。

海外派遣については、世界に飛躍する若者を育成する「Go Global Japan (GGJ)」が2012年度に、官民協働で留學生奨学金等を支援する「トビタテ! 留学JAPAN」が2013年度に始まった。GGJは、その後国際化を軸に抜本的な改革を行う大学を支援する「スーパーグローバル大学創成支援事業(SGU)」に内包された。日本人留學生数は順調に増加【図表3】。また、2014年にジョイント・ディグリー制度が認められるなど、国際化をバックアップするしくみも整ってきた。

この量的拡大を支えているのは、1か月未満の短期留學である【図表3】。一方で学位取得を目的とする留學生数は2004年度をピークに減っている【図表4】。

大学の国際競争力を表す客観的な指標の一つ、THE世界大学ランキングの結果を見ると【図表5】、日本のランキング校数は2016年以降急増していることから、国際化への意識は着実に向上していることがうかがえる。しかし世界のトップ200位入りしている校数は、増えるどころかむしろ減り、今では2校のみで、上位

コロナ禍は国際展開にどう影響?

取材・文/見山雄介 撮影/荒川潤

文科省に聞く！

大学の国際化が日本社会にもたらすもの

私の地元秋田県には優れた伝統工芸品や農作物がいくつもあります。いくつ品でも国内の需要は頭打ちで、従来の売り方を続けては苦しい経営を強いられます。そこで県は、国外へと目を向けました。世界的に著名なデザイナーと組んで漆器をつくる、各国の富裕層をターゲットにした高級果物を売り出す…。今やそうした国際的なネットワークが、産業の発展には不可欠です。

この光景に、日本の大学が国際化すべきだと考える理由が端的に表れています。少子高齢化による生産年齢人口の減少、東京一極集中と地方の衰退などの日本が直面する問題は、もはや自分たちの力だけで乗り越えられるものではありません。であれば、未来を支える若者にはグローバルな視点が必要であり、その教育を担う大学の国際化は、国の命運を左右する「死活問題」とさえ言えます。

協定をいくつ結ぶとか英語の授業を何コマ増やすとかの表面的な話ではなく、グローバルな視野で課題解決に当たることができる人材を、全国の大学と共に「本気」で育てたい。その思いで、当省は試行錯誤しながら施策を講じてきました。「グローバル30」は採択大学の国際拠点化を強く推し進めましたが、そこでだけで活動が閉じる「出島」になってしまった面があります。「GGJ」「トビタテ!留学JAPAN」によって留学の派遣・受け入れが全国的に活性化しましたが、人的交流だけでは競争力は付きません。海外の人々に積極的に選んでもらえる国にする競争力ある高等教育文化を根づかせようと「SGU」を提唱しました。

例えば研究者の獲得競争。世界市場に高額オファーがひしめく中で、募集広告に「給与は本学の規定に基づく」としか書かれていない大学を選びたくありません。留学先を選ぶときに、留学生専用の寮に住み日本人と分かれて授業を受けるような大学は魅力的でしょうか。日本の大学にはまだまだ、日本に来ると可能性が広がると思わせるだけのしくみとマインドセットが備わっていません。「SGU」は、教育・研究と地域のグローバル化の2つの面で、「世界に選ばれる、世界と共に歩むとはこういうことだ」と身をもって示す大学を日本各地につくり、それを起点に地域社会を変えることを意図した取り組みです。例えば採択校の一つ、立命館アジア太平洋大学がある別府では、コロナ禍で困っている外国人留学生を助けようと地域の方々から食べ物を持ち寄りました。こういう事例を、もっと全国に増やしたいのです。

ポスト「留学生30万人計画」の課題は？

アウトカムの検証・明確化とダイバーシティ・マネジメントにあり

高等教育局主任大学改革官
高等教育国際戦略PTリーダー
国際企画室長



佐藤 邦明

ざとうくにあき●1996年秋田県庁に入庁。国際教養大学の設置準備・運営等に関わる。2009年文部科学省に転籍し、大学の国際化を推進。2019年4月から国際企画室長、2020年7月より主任大学改革官、高等教育国際戦略PTリーダー。

コロナ禍で露呈した質保証の問題

コロナ禍により人的交流が止まったこと、特に派遣留学の中止は、確かに大きな打撃でした。自身の留学経験を振り返ってみても、現地の空気を吸うことで初めて理解できることが多々あります。安全かつ自由な交流の再開に向けて、関係各所に掛け合っているところです。ただ、コロナを経て得た収穫も少なくありません。オンラインで世界といつでもつながれることを、私たちは身をもって理解しました。COILがいい例です。これまでは補完的な使われ方が多かったように思いますが、現在は授業の主軸として使われ始めました。

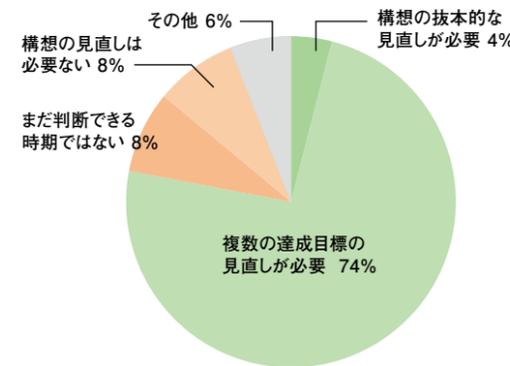
教育面での今後の課題は、学生のグローバル志向を失わせないため、また国内でグローバルな視野を身に付けさせるためのしかけの組み込み方と、その質の保証でしょう。決定的な打開策はありません。世界中の大学が頭を悩ませています。個人的には派遣留学を完全に代替する方法はないと思っていますが、逆に言えば、留学を通して育ててきた力にはどんな要素があるのか、何が代替できて何が代替できないのか、アウトカムを検証し、明確化する機会が訪れていると言えます。当省としてもオンライン化を含む教育改善を支援するとともに、「オンラインでもここまでできる」という日本の教育の強さを表す事例を集め、国内外に発信することを検討中です。

オンライン化の進展に伴って顕在化したもう一つの課題が、ダイバーシティです。障害を持つ学生や経済的に困難な学生が、機器を操作できない、購入できない状況に直面しており、学びの平等性が課題となっています。周りを見渡せば、外国人労働者が増え、国際結婚も珍しくなくなり、LGBTが注目され始め…とダイバーシティが求められる場面が至るところにあります。これらの課題を適切にマネジメントする力は世界中で必要とされており、日本でそれが身に付けられるとなれば、来日をめざす大きな魅力になり得るでしょう。全国の大学が、その拠点となることを期待しています。

大学の国際化の課題は何か？～SGU、世界展開力強化事業採択校アンケート結果より

*文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援事業」及び「大学の世界展開力強化事業」採択校に対するアンケート結果(第2回) | 2020年11月に実施。調査対象50大学が回答

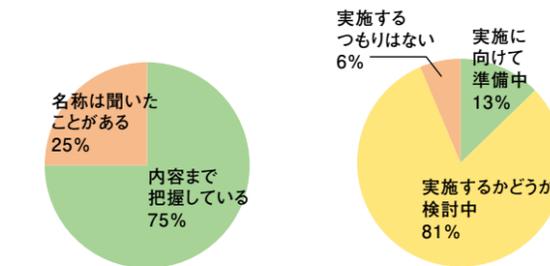
【図表7】事業構想の見直しの必要性は？



【図表9】オンラインによるグローバル教育／交流プログラムの対象地域は？

	派遣		受け入れ		双方向	
	実施	検討	実施	検討	実施	検討
中国	10	4	13	3	23	16
韓国	7	2	5	2	21	14
ASEAN	12	16	12	5	42	30
その他アジア	2	6	11	6	7	11
オセアニア	8	14	0	3	13	13
ヨーロッパ	18	15	11	5	20	11
北米	16	29	6	5	32	16
ロシア	2	2	4	3	26	19
中南米	1	1	6	0	2	0
アフリカ	0	2	1	0	0	0
中東	0	0	0	0	0	1

【図表11】学修歴証明書のデジタル化の状況は？



いるようだ。今後については、ほとんどの大学が「実地とオンラインのブレンド型」を志向している【図表8】。現状、オンラインでの教育、交流の実施対象地域は、ASEAN、北米、ヨーロッパなどが多いが、新たにアフリカや中東を対象地域とする大学も出始めている。こうした派遣・交流の実績が少ない地域でも、オンラインなら実施しやすいだろう【図表9】。ただし依然として、質保証や授業設計は大きな課題であるが【図表10】、例えば、コロナ禍で注目を浴びている*1 COIL型教育や、現地教育とオンライン教育を合わせたハイブリッド教育等は、課題解決の一助となる可能性を秘めている。これらの教育の実現には、海外連携大学との強固な連携が不可欠であり、これまで以上に大学の国際交流の実力が重要となる。もう一つ、日本の遅れが明らか課題に、学修歴証明書のデジタル化がある【図表11】。すでに世界42か国以上で導入されている。デジタル化により学修歴データの携帯性が上がると、結果的に学生や卒業生の国際的な活躍を支援することになる。現在一部の大学で*2実証実験中だが、これも今後のグローバル戦略の中で検討を優先すべき事項と言えよう。

【図表6】自学の国際化について目下の課題は？

学生や教職員の交流の停止による事業の停滞	46校
ポストコロナを見据えた新たな事業戦略の策定	43校
学生の安全確保や危機管理のあり方	33校
学生交流の停止によるキャンパスの国際環境の維持・あり方	32校
オンラインによる国際教育交流を行うための機材・人員の確保やノウハウの共有	28校
留学生のリクルーティング	25校
国際交流事業を停滞させないための予算・人員の確保	13校
海外の相手側大学の教職員とのコミュニケーション	11校
受け入れプログラム参加(予定)学生に対する経済的支援	5校
海外の相手側大学の運営や経済状況	3校
派遣プログラム参加(予定)学生に対する経済的支援	3校
受け入れ留学生数の減少による大学予算の減収	1校

n:50校

【図表8】コロナ終息後を見据えた国際化の方向性は？

実際の留学とオンラインによる交流とを合わせたブレンド型／ハイブリッドプログラムへの見直し	45校
日本人学生の派遣については、今後は量より教育や学びの質をより重視する	28校
外国人学生の受け入れについては、今後は量より教育や学びの質をより重視する	25校
新規開拓地域を含む交流相手国・大学については、当該国・大学におけるコロナ対応を重視する	16校
交流する相手国・大学を増やすのではなく、既存の交流先でよりよい人材(学生や教員)の確保をめざす	16校
コロナの世界的状況を見ないと現時点では何とも言えない	13校
外国人学生の受け入れについては、量的拡大をめざす	10校
日本人学生の派遣については、量的拡大をめざす	9校
オンラインによる交流を主軸とした方針への転換	6校

n:50校

【図表10】オンライン／オンデマンドによるグローバル教育の課題は？

オンライン国際教育・交流の質保証のあり方	45校
オンライン向けの授業設計や教材開発のノウハウ	39校
人的労力や財政上のコストに見合った教育効果の確保	33校
オンラインやオンデマンドのための機器やしくみに精通した教職員の確保	30校
プログラムの目的を満たした施設や機器の確保	15校
大学設置基準や著作権法等の関係法令による制約	13校
その他	5校

n:50校

*1 オンラインを活用した双方向の国際協働学習(Collaborative Online International Learning)「大学の世界展開力強化事業」(2011年度～)の2018年度支援テーマ(COIL型教育を活用した米同等との大学間交流形成支援)にもなっている
*2 運営機関：一般社団法人国際教育研究コンソーシアム 運営監督：2019年度 国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))「国境を越える人材と資格・学歴認証の将来像」

「全員留学」制度のある大学はどうしてる？

～「全員留学」実施大学における“留学に行けない”状況での教育

大学名	国際教養大学	武蔵野大学	近畿大学	
	THE世界大学ランキング日本版2020 / 10位 外国人学生比率 / 24.5%、留学比率 / 20.4%、 英語講座比率 / 77.6%、海外協定校 / 185校	THE世界大学ランキング日本版2020 / 151-200位 外国人学生比率 / 7.2%、留学比率 / 2.9%、 英語講座比率 / 4.5%、海外協定校 / 66校	THE世界大学ランキング2021 / 801-1000位 同アジア版2020 / =172位 同日本版2020 / =75位 外国人学生比率 / 1.8%、留学比率 / 2.3%、 英語講座比率 / 2.4%、海外協定校 / 252校	
全員留学の内容	対象学部 (入学定員)	国際教養学部 (175人)	グローバル学部 グローバルコミュニケーション学科 (165人)	国際学部 (500人)
	狙い 時期や行き先など	▶自らの学びをデザインし実践する力や、異文化の環境でもまれ、知識だけでなく、全人格的な「人間力」を身に付けることなどが狙い ▶期間は1年間。時期は個々で異なるが、主に2年次冬か3年次秋から。留学先は、50の国・地域にある200の提携校の中から、学生の希望を基に成績や志望理由などで選考して決定	▶語学力の向上と異文化体験を通じた、人間的成長を期待 ▶2年次前期に5か月間、アメリカに留学(約12か所に分散)。ホームステイ形式。事前学習では、留学先の地域・文化などを調べ、目標設定や行動計画を立案。事後学習では、振り返りを基に自己のキャリアを考える	▶主な狙いは語学学習や異文化体験 ▶1年次後期から1年間留学。グローバル専攻は、アメリカの大学等に9月から4、5月まで。東アジア専攻中国語コースは、中国か台湾の大学に9月から7、8月まで。東アジア専攻韓国語コースは、韓国の大学に9月から8月まで
対応	対応内容	▶留学中の学生は、ほぼ全員が2020年1～2月に帰国。春学期は留学先のオンライン授業を自宅などで受講。秋学期は留学先と自学の授業を選択できるようにしたが、時差の関係で、多数が自学の授業を受講した ▶非常時対応として、以下のいずれかの場合は1年間の留学を行ったと見なす ①留学を1学期間経験して帰国 ②海外提携校の授業をオンラインで1年間受講 ③インディペンデント・スタディ*3を履修 ▶上記の場合も、再度留学に赴くオプションを選択できるように準備中	▶現2年生は留学を延期し、英語の授業等を受講していたが、最終的に留学中止を決定し、特別研修を開催。予定していた北米講師による授業を実現するため、本年2月にELSカナダとつなぎ1か月100時間のオンラインプログラムを双方向型で実施。その後にはキャリアプログラムも提供。状況が許せば、3年次後期に希望者が留学に参加できるプログラムを準備する意向 ▶現1年生は、3年次春(2022年春)に留学を延期。2年次前期は、留学後に受講予定だった科目を一部前倒しして実施。事前学習の内容を、これまでの地域研究からグローバル企業研究に変更して、帰国後すぐに就活に臨めるようにする	▶現2年生は、2020年3月に留学を中断して帰国。残りのプログラムはオンラインで受講し、プログラムを修了 ▶現1年生については、グローバル専攻は、出発を2021年4月(語学留学)または9月(学部留学)に延期。1年次後期は、留学先のELSで予定されていたものとはほぼ同様のカリキュラムによる、少人数・対面授業をキャンパス内にて実施。東アジア専攻は、中国、台湾、韓国の感染状況および留学ビザの発給状況などを考慮しつつ2021年1月以降に発出を延期。1年次後期は、現地の大学の授業をオンラインで受講 ▶説明会や文書を通して、学生・保護者にタイムリーに情報提供
	背景	就活や卒業を不安視する学生や保護者の声があり、苦渋の決断として留学の代替プログラムを準備。インディペンデント・スタディでは、留学の狙いと同等レベルのアウトプットを学生に求めている	前年度、全員留学を経験した第1期生の成長がめざましく、本年度も限界まで留学を実現する道を探った。キャリア形成につながる留学が特徴なので、中止決定後は語学だけでなくキャリア教育の面でもフォローを行った	語学教育のほか、早期の異文化理解・留学体験による学びを重視しており、従来同様、実際に海外に学生を送り出したと考えている。そのため、中止ではなく「延期」としている。さらに延期となった場合の対応は検討中
今後について	「留学先で全人格的にもまれること、現地に身を置いて学ぶことの大切さが改めて浮き彫りになった。一方で、距離を越えて著名な研究者に講演してもらおうなど、オンラインだからできることも経験した。その利点を取り入れ、対面と併用し学びを強化していきたい」(熊谷嘉隆理事・副学長 談)	「現地に行く意義は極めて高い。当初予定の留学より短期間になったとしても、リアルな異文化体験ができる機会を何らかの形で設けたい。留学プログラムを通じた学生の成長の可視化を進めており、データを検証してプログラムの改善・向上に努める」(古家聡学部長 談)	「留学時期の入れ替えはあっても、トータルとして4年間のカリキュラムを壊さないようにしたい。現1年生は、語学は現地留学と同様の内容を提供できているが、異文化体験が不足。現2年生は、改めて留学した際に単位を認定するなど、柔軟に対応する」(藤田直也学部長代理 談)	

*3 インターンシップとMOOCs履修を組み合わせながらテーマや活動内容を自分でデザインする学び。2020年12月から履修登録受け付け

学びを止めない！ 国内でできる グローバル教育

outbound

今号で取材した大学は一律に、「現地では学べない学びがある」と、留学の価値を再認識している。渡航の制限が続く中で、各大学はグローバル教育についてのどのような対応を取っているのか。

学生のグローバルマインドを 育てるために今、できること

「緊急措置」で終わらせず
今ならではの学修効果を

コロナ禍による海外渡航の制限は、日本人学生のグローバル教育に大きな打撃を与えた。今回、その影響が深刻な「全員留学」制度を設ける国際教養大学、武蔵野大学、近畿大学に取材した。P.7にまとめた通り、3大学はいずれも、渡航制限が緩和され次第、留学に行けるしくみを準備するとともに、留学の代わりとなる学修プログラムを提供している。

渡航前に留学を中止した武蔵野大学グローバル学部グローバルコミュニケーション学科は、留学先のオンライン授業と併せて、アフターコロナ時代のグローバル人材像を検討し、新たな目標を設定する特別研修を実施。研修後の学生から「この状況だからこそ考えられること、できることがわかった」「全てを留学で行おうと考えていたが、今後は国内の学習にも自覚的な姿勢で臨みたい」と、学びの意欲を捉え直す声があがったという。

近畿大学国際学部グローバル専攻

攻の留学は、ELSが提供する授業をまず学内で、次いでアメリカで受けるしくみだった。渡航延期を受けて大学は、学内授業を担当するELS講師に継続勤務を要請。留学先とはほぼ同じ語学プログラムを学内で提供した。

国際教養大学は、留学の代替プログラムを新たに策定。国内インターンシップと*2MOOCsを組み合わせて、学生自らが学びを立案・実行するもので、全員留学同様、学生が自分の進む道を切り拓くことを強く促すものとなっている。

3大学ともに、これら国内プログラムを受講したうえで留学を経験した学生の成長にも期待する。語学力や課題解決力、将来のキャリア観などが底上げされた状態で、留学に臨むことになるからだ。P.8～9では、グローバル教育を推進する多様な方法として、学内や地域の多様性を高める取り組み(広島大学、島根大学)、グローバル人材育成での新たな挑戦(神戸外国語大学)、海外協定校のノウハウを自学の遠隔教育に生かす事例(東京都立大学)を紹介する。

*1 英語学習等を提供する留学生受け入れ機関の一つ。全米およびカナダの大学のキャンパス内に30以上のセンターを持つ
*2 Massive Open Online Course(大規模公開オンライン講座)

広島大学

所在地/広島県東広島市 学生数/約14700人
THE世界大学ランキング2021/801-1000位
同アジア版 2020 / =177位
同日本版2020/12位

海外大学のキャンパスを学内に設置 「Town&Gown」で取り組む国際化

広島大学は、アリゾナ州立大学(ASU)のキャンパスを東広島キャンパス内に設置、共同運営を行う。ASUは、学生数をこの15年で約5万人から約12万人に増加させた「全米で最も革新的な学校」*1だ。設置されるのは「ASUサンダーバードグローバル経営大学院-広島大学グローバル校」で、2021年8月に学士課程を開校する。東南アジアや日本のインターナショナルスクールに通う生徒が主なターゲットで、1期生は25人、将来的には毎年250人を受け入れる予定だ。

同校の共同運営によって広島大学は、キャンパス内の多様性の向上、マネジメント手法や教授方法の共有を期待している。2020年11月にはオンラインによるパイロット授業を実施した。さらに、地方都市の発展モデルを構築する狙いもある。ASUはTHE世界インパクトランキング2020で5位に輝くなどSDGsに熱心に取り組むとともに、本部を置くテンピ市と「Town&Gown」*2方式で地方創生の実績を上げている。これに倣い、広島大学と東広島市は2020年4月に「Town&

Gown Office準備室」を設置。ASUやテンピ市と連携してイノベーションや働きがいの創出、外国人との共生、環境保全などをめざす。

現在、東広島キャンパスでは国際交流拠点施設の建設も進んでおり、キャンパスが「自学の学生や教職員のための場所」から「外国人や市民を含め多様な人が集う、街のグローバル化の中心地」に変わろうとしている。

海外大学のキャンパスを学内に設置するのは、日本の国立大学では初という。「国立大学も“金太郎アメ”のような無個性では生き残れない。他大学がやっていないことに挑戦する必要がある」と越智光夫学長は語る。



▲ASUの授業を受講するなどの交流がすでに始まっている

*1 U.S.News & World Report誌が全米の教育機関から毎年15校を選出。ASUは6年連続で第1位を獲得 *2 Town(街)とGown(教職員、学生)が一体となった街づくり

島根大学

所在地/島根県松江市 学生数/約6000人
THE世界大学ランキング2021/1001+位
同アジア版 2020 / 401+位
同日本版 2020 / =81位

留学生と地域をつなぎ 地域貢献型のグローバル化を推進

島根大学の国際交流は、留学経験を通して県の地域活性化をけん引する人材を育てる点に特徴がある。そのためアウトバウンドでは、単に語学や異文化体験にとどまらず、課題解決力の育成をめざす研修を増やしている。代表例が「グローバル・イシュー実践海外研修」だ。学生は2月に10日間、カンボジアに赴き、現地の課題解決をめざして自分たちが企画した活動を行う。2020年2月はコロナ禍により中止したため、2021年2月のオンラインによる実施が初開催となる予定だ。学生による企画立案に代えて、現地の問題を解決する課題研究プログラムなどを同国のNGOと連携して準備した。「実際の渡航と同じ効果は期待できないが、オンライン化により多くの学生に参加機会を提供できる」と国際交流センターの青晴海教授は話す。

インバウンドについても、地域活性化に取り組む。同大学に来る留学生は、地域との交流を希望する学生が多いため、地域の空き家を住居として提供したり、スポーツイベントを開催したりして、地域交流を

サポート。さらに県内企業に就職するための支援も実施している。IT人材などの不足から、県の経済界は優秀な留学生の確保に意欲的で、複数の企業が寄付金を供出して、基金を設立。県内企業のインターンシップに一定期間以上参加した留学生に、奨学金を支給している。

さらに、東京の大学に通う外国人留学生の1ターン就職支援について、東洋大学と連携。2020年2月に同大学の留学生19人を島根県に招き、3日間の就業体験、県の魅力を伝える講演などを提供。日本の豊かな地方文化を体験する機会にもなっている。



▲インターンシップ先企業と留学生の面談の様子

国内で取り組むグローバル教育 TOPICS

東京都市大学

所在地/東京都世田谷区 学生数/約7500人
THE世界大学ランキング2021/1001+位
同アジア版 2020 / 401位
同日本版 2020 / 141-150位

海外協定大の遠隔授業ノウハウを FDを通じて自学の教育にも生かす

「東京都市大学オーストラリアプログラム(TAP)」は、1年次2月または2年次8月から約4か月間、オーストラリアのエディスコワン大学(ECU)またはマードック大学(MU)で、英語と教養を学ぶプログラム。特徴は希望者全員が参加でき、英語力を問わないこと。参加の敷居を下げることで、特に理工系学生に世界を知るきっかけを与え、「使える英語力」を育てる狙いがある。自由参加だが、例年、1年生の1~2割が渡豪。TAPを同大学の志望理由に挙げる受験生も多いという。

2020年度はコロナ禍により、1年次2月からの参加者は3月下旬に緊急帰国。受け入れ先大学のオンライン科目を6週間受講し、カリキュラムを修了した。2年次8月から参加予定だったグループは、留学を1年延期。英語講座、ECU、MUによるオンライン研修や現地学生との交流の機会などを提供し、モチベーション維持を図っている。

これらの代替措置を取る中で、同大学は多くの収穫を得たという。オンライン授業のノウハウの習得はその一つ。「ECU、MUは以前から

日常的にオンライン授業を取り入れており、授業の進め方や課題の出し方、配信システムなどが洗練されていた」(本間宏二国際センター長)。事前学習用の映像を用意する、各授業のテーマを明確にする、といった工夫を、FD研修会を通じて全学で共有し、自学のオンライン授業に生かした。また、オンラインによる英語の授業は、消極的な学生にも発言の機会を与えやすく、高い学習効果が見込めることもわかった。「例年より検定のスコアが高く、手応えを感じる。オンラインでのコミュニケーション力養成は今後さらに重要になる。配信の機会を増やしたい」と程田昌明国際部長は述べる。



▲途中帰国した学生に提供されたECUによるオンライン授業

神田外語大学

所在地/千葉県千葉市 学生数/約4200人
THE世界大学ランキング日本版 2020 / =36位

オンラインを活用して世界を巡る 海外スタディ・ツアーを計画

開学以来、外国語学部の一学部体制だった神田外語大学は、2021年4月、グローバル・リベラルアーツ(GLA)学部を新設。「世界の現実を体感し、平和のために活躍できる人」を育成する。外国語学部の場合、「まず手段としての語学力や知識、スキルを主に国内で身に付け、その後、世界に飛び出す」教育モデルだが、GLA学部はその逆で、「入学直後に世界に飛び出し、課題を肌で感じて、その課題解決に必要な力を帰国後に身に付ける」教育を行う。

世界の課題を感じる機会として設けているのが、1年次6~7月に行われる「海外スタディ・ツアー」。日本とは社会状況が大きく異なる地域(右図)での3週間の研修を通じて、貧困、環境汚染、民族や宗教の対立といった課題と向き合う。そこで感じた平和を願う心をモチベーションにして課題解決に必要な専門性を国内で培い、3年次後期のニューヨーク州立大学への留学でさらに深める。

2021年の同ツアーは、オンラインでの実施に変更。受け入れ先大

学提供の授業、現地学生とのディスカッション、ビデオカメラを使った現地NGOへの「バーチャル訪問」などを予定している。当初は4地域から1地域を選んで訪問する形式だったが、オンライン化により、1人の学生が4地域を全て体験することが可能になった。一方で同学部は現地でのリアルな経験も重視しており、オンラインプログラム開催後も、渡航制限が緩和され実施可能な時期に短期ツアーを行う予定だ。

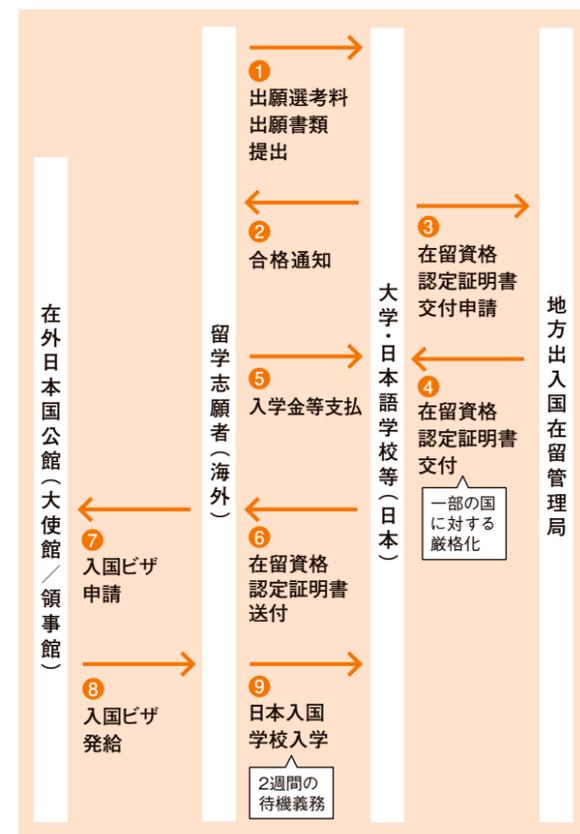
総合型選抜の受験生と接した金口恭久副学長は「コロナ禍中においても、世界をフィールドに課題解決に挑もうという高校生の意欲はまったく衰えておらず、心強く感じた」と話す。

人道	多文化共生
リトアニア 国立ヴィータウタス・マグヌス大学	インド シンバイオシス国際大学
宗教	サステナビリティ
エルサレム 国立ヘブライ大学	マレーシア・ボルネオ 国立フトラ大学/スウィンバーン工科大学

▲入学後すぐに体験する海外スタディ・ツアー訪問先

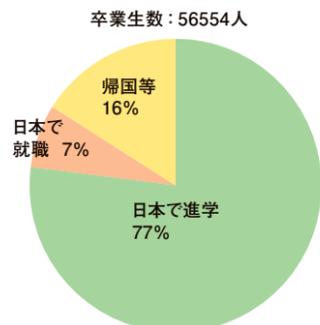


【図表4】留学志願者が来日するまでの手続きの流れ



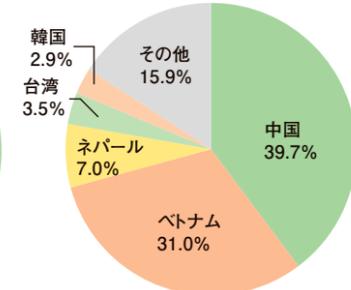
※JAPAN STUDY SUPPORT掲載情報や留学生教育学会への取材を基に編集部にて作成

【図表2】日本語学校の卒業生の進路 (2018年度)



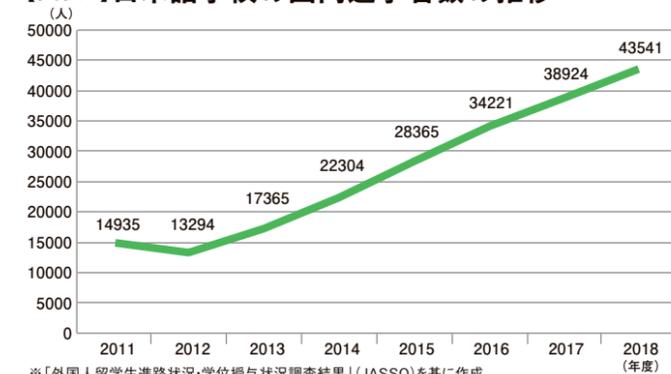
※「2018年度外国人留学生進路状況・学位授与状況調査結果」(JASSO)を基に作成

【図表1】国内の日本語教育機関在籍者の出身国・地域別の割合



※日本語教育振興協会「日本語教育機関実態調査」(2019年度)

【図表3】日本語学校の国内進学者数の推移



※「外国人留学生進路状況・学位授与状況調査結果」(JASSO)を基に作成



inbound

どうなる? どうする?
留学生募集

コロナ禍によって先行きの不透明さが増す学生市場。日本留学希望者の現状、今後の動向予測から、withコロナの時代に対応した留学生募集戦略を考える。

日本語学校の状況から探る留学生募集の今後

日本語学校の4月生で入国できたのは7%

イングリッシュストラックや留学生別科のある大学に限られる日本では、多くの留学生は日本語学校を経て大学に進学する。したがって留学生募集戦略を検討する際は、日本語学校の学生在籍状況を知ることが不可欠だ。まず、コロナ禍以前の状況を整理しておく。

2019年5月時点の日本語学校在籍者は約8万4千人で、中国、ベトナムからの学生が多い【図表1】。卒業後は8割弱が日本の大学等に進学【図表2】。その数は右肩上がりに伸びていた【図表3】。それがコロナ禍でどう変わったか、多くの日本語学校が参加する留学生教育学会に話を聞いた。

与野学院日本語学校校長・谷一郎氏は2020年の状況を次のように説明する。「日本語学校への入学時期は年4回(4・7・10・1月)ある。2020年4月入学の予定者は約3万3千人いたと推定されるが、入国制限前に入国できたのは7%程度と思われる」。

10月からは私費留学の新生の入国が可能になったが、再び外国人の入国が制限されてしまった。外国人が日本で学ぶには数々の手続きが必要であるが【図表4】、日本での感染者増加、入国後は2週間の待機が義務付けられていたため、来日を延期するケースも出ており、結局、昨年に入国できたのは、6、7割程度と見られる。

在留資格認定証明書の交付を出入国在留管理局に申請する過程で2021年4月の募集状況も見えてきたが、「結果はかなり厳しい」という。中国の学生はさほど減っていないが、ベトナムほか東南アジアからの学生が激減しているようだ。「感染を恐れて保護者が海外に出さない、家計の急変で留学資金がなくなった等の理由が考えられる。2020年4月から在留審査が厳しくなっていることも影響している」(谷氏)。

留学生目線に立った中期的な戦略が必要

日本語学校への入学者減少が与

える大学進学者数への影響を、岡山外語学院副理事長・森下明子氏はこう予測する。「日本語学校に通う期間は最長2年間。2021年3月の大学進学者はコロナ禍以前から日本にいる学生だが、帰国希望者が増えている。加えて、コロナ禍による特例措置で、日本語学校の在籍期間が延長可能になったため、次年度に大学進学を持ち越す学生もいるだろう。よって、2021年3月の進学者数は、結果的に2020年3月比の7、8割になる可能性もある」。深刻なのは2022年3月の大学進学者数だ。前述の卒業を延期した学生を考慮しても、2020年3月比の3、4割程度と、激減が予想される。これは、2020年中に多くの入学予定者が予定の時期に入国できなかったためだ。次の2023年3月については、2020年に入学予定だった学生の入学がずれて一時的に同比の9割程度に回復することも考えられるが、それも今後の感染状況次第だ。また、再度の入国制限が長期化すれば、予測に影響が出るだろう。いずれにせよ、留学生募集は厳しい状況が続く。

今、大学が留学生募集でやるべきことは何か? 同会副会長・永井早希子氏は次のように指摘す

る。「アジアの学生にとって、日本は『第一志望』の留学先ではない。そもそも留学希望者本人も保護者も日本の大学をよく知らないのが実情だ。教育内容、就職支援の広報活動をもっとすべきでは」。逆に言えば、最初は有名大学を志望していたとしても、「自分が希望する学びが心地よくできる大学」「就職支援が手厚い大学」を口コミで選ぶことも多い。「多くの留学生はたとえ小規模であっても面倒見がよい大学なら志願する」(永井氏)。

今こそ募集・入試・教育・サポート・就職支援を、留学生目線で見直し、中期的な戦略を持って取り組む必要があるだろう。なお、永井氏によれば、留学希望者から見た日本の魅力は「①欧米と比べて就職しやすい」「②アルバイトが認められているため、奨学金だけに頼らなくて済む」「③魅力的な日本文化がある」ことだという。

近年は、現地の大学を出てから日本語学校で学び、直接、日本企業に就職する外国人も増えている。こうした変化もある中で、日本の大学の魅力を、どう発信していくのか。国と大学、日本語学校が連携して取り組んでいくべき課題だろう。

コロナ禍でも促進すべき国際化 大学の存在価値と評判マネジメント



(株)進研アド 改革支援室
柴田 聡子
しばたさとこ (株)ベネッセコーポレーション 大学事業部、シンガポール、英国勤務を経て2018年より現職。ランキングや海外の動向分析を基に、大学の国際化を支援。

取材・文 / 本間学 撮影 / 亀井宏昭



サミットで議論された主なトピックス

教育	<ul style="list-style-type: none"> ◎オンライン授業科目の拡充と、それに対応したコースデザインの見直し ◎クリティカルシンキングやバックグラウンドが異なる他者との協働などを、オンライン授業で実現する方法 ◎オンラインによる試験の実施方法、および学生へのフィードバックの質向上
研究	<ul style="list-style-type: none"> ◎国際共同研究における新たな形のパートナーシップの構築の必要性 ◎オンラインによる査読の実施、査読サイクルの短期化による研究のスピードアップ化 ◎産学の共著論文数の増加に伴う、全地域での産学共著論文のFWCIの上昇 ◎ワクチンの共同開発など、コロナ禍における産学連携の重要性
社会貢献	<ul style="list-style-type: none"> ◎社会に対する新型コロナウイルスに関する情報提供、啓蒙活動 ◎地域コミュニティへの支援のあり方、関わり方 ◎大学の社会的な価値の発信、コミュニケーションのあり方 ◎コロナ禍がSDGsに与えた影響
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ◎学生(国内学生、留学生)に向けた、迅速な危機管理コミュニケーションのあり方 ◎コロナ禍における評判マネジメントについて(コロナ禍での成果の発信) ◎コロナ禍により価値観が変わったステークホルダーとのコミュニケーション方法

コロナ禍をポジティブに変革のチャンスと捉える

2020年9月に開催された、THE世界学術サミット。今回はオンラインで行われ、世界の高等教育機関関係者がコロナ禍への対応とそこから得た知見をシェアする場となりました。

サミットで感じたのは、世界の優れた大学はコロナ禍からポジティブな部分を見出し、変革の機会と捉えていたことです。中でも「コロナ禍はエポリユーション。前年度まで150だったオンライン科目を、数千にまで拡大し、コースデザインも根本的に見直している」(トロント大学)、「変革を止めない。1年かけて取り組む予定だった事項を、数か月で完了させた」(ニューヨーク大学)といった発言が印象に残りました。「あらゆる教育の話題では、オンライン授業に関心が集まりました。」「あ

ゆるバックグラウンドの学生に教育の機会を与える」(シドニー大学)、「対面授業よりも学生へのフィードバックの質が上がる」(トロント大学)など、利便性を評価する声がある一方、「対面でのコミュニケーションの中で得られる教育効果は何物にも代え難い」といった意見も複数の大学から出ており、「知識の伝達にとどまらない教育の価値を、どうオンラインで実現するか」が世界的な課題であることを再認識しました。

研究面では、オンライン化によって共同研究、論文の国際共著が活発になり、清華大学からは「オンラインによる論文査読が増えたことで査読サイクルが短くなり、研究が加速している」という発言も。産学連携についてもますます増加傾向にあり、特に「コロナの治療、ワクチン開発はグローバルイシューだからこそ、オープンな研究が不可欠」という考えが、世

コロナ禍で問われる大学の留学生獲得戦略

リスク要素を緩和するための三角測量データ

ユネスコによると、2017年度時点で530万人もの留学生が海外で学んでいます。そのうち半数以上が主要6か国(米、英、豪、仏、独、露)へ留学しています。2019年の留学による世界的な経済効果は約650億ドル。この経済効果は2027年までには約1200億ドルに伸びると予測されていましたが、コロナ禍で減少に転じています。【図表1】は、THEが毎年世界200大学に実施している「リーダーズ調査」の結果です。「コロナ禍で学生は減少するか?」という問いに対して、留学生について「強く同意」「同意」と答えた大学を合わせると75%にも上りました。

【図表2】は同調査で、「コロナ禍で学生募集に困難を来したら、大学の財政に影響が出るか?」という問いに対する回答を地域別にまとめたものです。多くの国では留学生と国内学生では同等、または留学生の学費収入で影響が出るという割合が多い傾向にありますが、日本の場合、留学生減少が大学の取

入に与える影響は限定的です。それだけ日本への留学生数が少ないということでしょう。学生の留学意欲は回復基調にあるようです。オランダの留学情報サイト「Study portals」によれば、2020年3月半ばの時点ではアクセス数が前年に比べ大きく減少していましたが、9月初旬には前年レベルに戻ってきていることがわかっています。

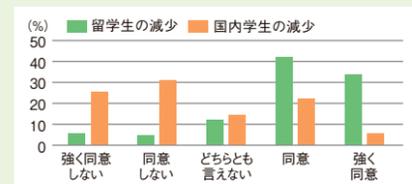
留学生の動向は各国の政治状況や自然災害にも左右されます。英国では2017年に政府が大学卒業後2年間の就労ビザ発給を停止したため、留学生が減少。ニュージーランドでは2011年の震災が留学生の動向に短期的な影響を及ぼしました。

このように留学生募集は、外的要因に大きく左右されます。リスクを低減するためにも、1つのデータソースで判断せず、「世界の大学の動向調査」「留学情報サイトへのアクセス傾向」「各国の政策・入国管理状況」という3つの側面から分析し、戦略を定めることが重要でしょう。

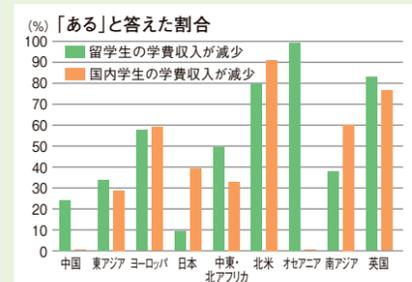


Times Higher Education
コンサルタンシー・サービス担当
マネージングディレクター
エリザベス・シェパード
Elizabeth Shepherd

【図表1】コロナ禍で学生は減少するか?



【図表2】コロナ禍で学生募集が困難になったら、大学の財政に影響はあるか?



*「THE Leaders Survey」(2020年5月実施。世界200大学が対象)

界の大学の共通認識になっているようです。

感染拡大期における留学生への対応も共有されました。シドニー大学では、連帯感を高めるために自国で学修する留学生向けにSNS上でオンライン学習に関する自分の経験の投稿を呼びかけるほか、1対1のピアサポートアドバイスも提供しているとのこと。これは留学志望者にも提供され、在学生とのチャットが好評を得ているそうです。多数を占める中国人留学生向けには特別に、副総長自らがメッセージアプリを通じて中国語のメッセージを発信。さらに、大学のサイトに彼らを勇気づける動画をアップするなど、学生だけでなく、保護者や留学エージェントまで視野に入れたコミュニケーションを展開しています。

また、清華大学では、バーチャルサマースクールに、世界から1000人もの学生が参加したこと。逆境の中でも積極的に展開しているこういった海外大の取り組みは、日本の大学も参考になるでしょう。

危機の中でこそ高める大学の存在価値と評判

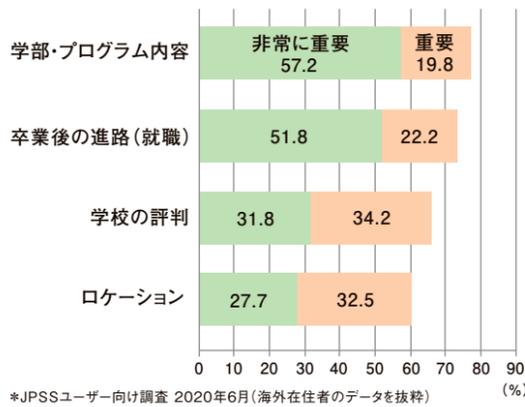
世界の大学は、コロナ禍におい

ても社会とのつながりを強く持っていたことも印象的でした。特に欧米の大学では、組織的に連携して地域コミュニティに対する啓蒙活動を行ったり、学生ボランティアをサポートしたりする取り組みが見られます。

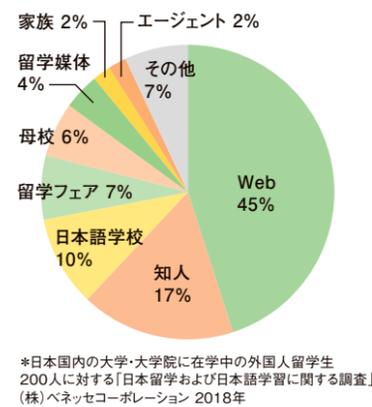
また、シンガポール国立大学(NUS)は、OB・OGに協力を募るなどして、2020年度の卒業生のために1000人分の雇用先を提供したと言います。NUSは、コロナウイルスや新しい生活様式をわかりやすく紹介する漫画を、市民への啓蒙活動の一環として制作したり、医学専門家向けのウェビナーを毎週開催したりしていました。こうした活動を通して大学の存在意義を社会に発信することは、結果的に大学の評判につながるでしょう。

このほか、留学生の動向に関するセッションでは、THEから「コロナ禍によってもともと留学先として人気のあったオセアニア、欧米から、ほかの地域へ留学生が流れる可能性がある」という話がありました。アジアの大学にとって、これは留学生獲得の好機になるかもしれません。今こそ、コロナ禍による大きな環境変化に対応した留学生獲得の戦略を、考えるべきではないでしょうか。

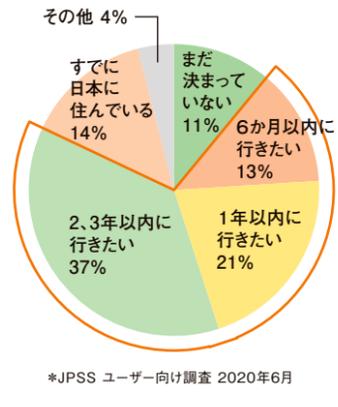
【図表5】学校選択の際に、日本留学希望者が重視する項目



【図表4】日本留学希望者の情報入手方法



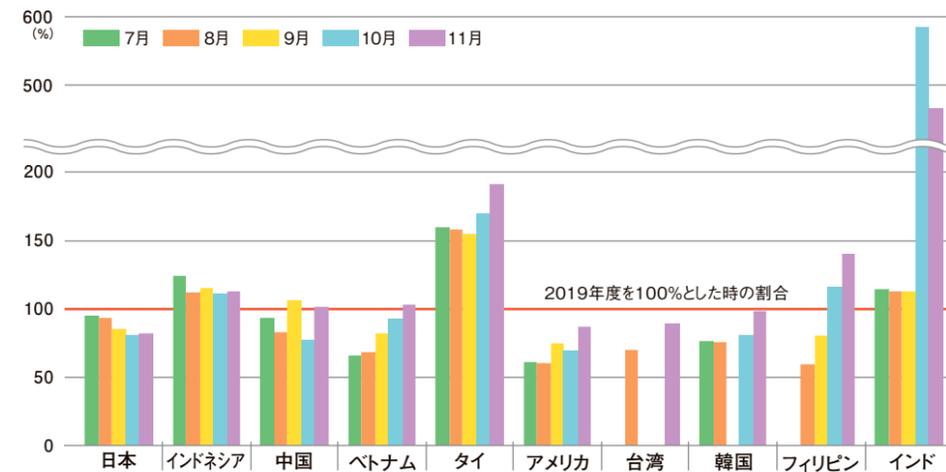
【図表3】日本留学希望者が留学を計画する時期



【図表1】日本留学希望者の出願動向予測と広報ポイント

	2021年度		2022年度	
	国内の日本語学校出身者からの出願	海外からの直接出願	国内の日本語学校出身者からの出願	海外からの直接出願
動向予測	減少傾向	減少傾向	大幅に減少傾向	減少傾向
募集広報のポイント	日本在住の志願者に効果的に広報する必要がある	日本語の学習が間に合わなかった学生がEnglish Trackに方向転換する可能性がある	海外で日本語を学び続けている志願者に効果的に広報する必要がある	意欲を保ち計画的に準備してもらえよう前もって広報を展開する

【図表2】2020年度JPSSサイトへの国別訪問状況の対前年比較

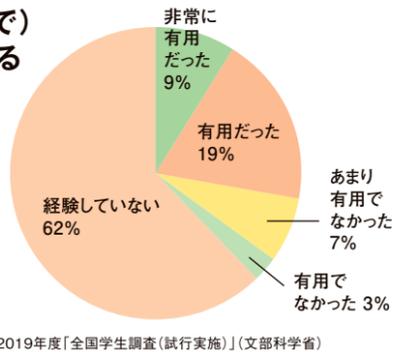


日本留学希望者向け情報サイト

JAPAN STUDY SUPPORT (JPSS)

公益財団法人アジア学生文化協会と(株)ベネッセコーポレーションが共同運営するWebサイト。年間150万人、月間12.5万人閲覧。SNSは114万人がフォロー。会員数約10万人、スカウト機能登録数5.3万人。

【図表6】(学内で)自分とは異なる国の学生との交流は有用だったか



トは3つあります。まず、オンラインでの発信です。コロナ禍以前から、日本留学希望者はWebを通じて情報入手する傾向がありました。【図表4】。当面留学フェアなどのイベント開催が難しい状況下では、募集活動はWebへとシフトせざるを得ません。特に次年度以降は国内の日本語学校学生数が減少する見込みから、対面接触できる志願者が減ります。よってオンライン上で接触者が出願までたどり着けるようフォローし続けるしくみづくりが喫緊の課題です。そのためには、志願者目線の情報を伝える形で掲載することが重要です。「サイトの構成が複雑で必要な情報にたどり着きにくい」。これは、多くの留学希望者から指摘される問題点です。

また、「情報の内容」も改善の余地があります。【図表5】は日本留学希望者に「学校選択の際に何を重視するか」を聞いたものです。が、「学部・プログラム内容」「卒業後の進路(就職)」が上位に挙がっています。日本人学生以上に、学部・プログラムの特色を端的にわかりやすく伝えることが欠かせません。また、多くの希望者が日本での就職に関心を持っています。が、留学生の就職実績、就職先を開示している日本の大学は多くな

く、実際に留学生からは、「日本の就職スケジュールを知らなかった」「キャリアセンターは日本人向けの情報ばかりで、留学生向けの情報、アドバイスがなかった」等の声も挙がっています。こういった留学希望者が知りたい情報を整理し、彼らが迷うことなく情報にたどり着けるようなサイトになっているか、一度点検してみましよう。

3つ目に大切なのは、必要な情報を適切なタイミングで届けること。各接触者に対して認知から出願に至るまで、各プロセスで必要な情報を提供し、「よい大学だと思っていたが、出願の締め切りが間近で諦めた」「オープンキャンパスが終わってしまった」といった機会の損失がないよう、SNS等を活用したダイレクトマーケティングも外せません。

【図表1】は、直近2年の留学希望者の出願動向予測と広報のポイントをまとめたものです。まず国内の日本語学校経由での出願は、コロナ禍により大きく減少する見込みです。2021年度はまた前年度から日本語学校で学んでいる学生が一定数いるものの、その後の新入生は激減しており、2022年度は志願者が大幅に減少すると予想されます。加えて、コロナ禍の先行きが不透明なうちは海外からの直接出願も減少する

可能性が高いでしょう。一方、外国人の留学意欲はどうでしょうか。【図表2】は留日希望者向け情報サイト「JAPAN STUDY SUPPORT」(JPSS)への訪問状況の国別対前年比を表したグラフです。日本国内からのアクセスは前年比8割程度まで回復し、インドやタイをはじめ多くの国のセッション数は目覚しく伸びています。JPSSユーザーに向けたアンケートでも約7割が「数年以内に日本に留学したい」と回答しています【図表3】。このように日本留学のニーズは引き続きあるため、今こそ積極的な広報を展開していくべきでしょう。

【図表6】は、学内で自分とは異なる国の学生との交流が有用だったかという調査結果を示しています。62%の学生が経験していないものの、19%の学生が有用だったと回答しています。また、9%の学生が非常に有用だったと回答しています。これは、国際交流の重要性が認識されていることを示しています。

【図表6】は、学内で自分とは異なる国の学生との交流が有用だったかという調査結果を示しています。62%の学生が経験していないものの、19%の学生が有用だったと回答しています。また、9%の学生が非常に有用だったと回答しています。これは、国際交流の重要性が認識されていることを示しています。

OPINION

留学生視点で考える
withコロナの留学生募集戦略

海外向け募集広報のスペシャリストが語る、留学生市場の変化と今後の募集戦略のポイントとは？



室 雅子
むろまさこ ●2012年(株)ベネッセコーポレーション入社。2019年より、留日広報・日本語力育成・就職支援に関する事業開発に従事。

取材・文/本間学 撮影/亀井宏昭

【図表3】THE世界大学ランキング2021の指標

※人数はFTE換算値。フルタイムの何人分に相当するかで示したものの
※本計算式は、プライスウォーターハウスクーパーズ(PwC)による第三者監査を受けている

分野	指標／指標中の割合	割合	対象年度	データ元	備考			
教育	評判調査<教育>	15%	2019, 2020年	エルゼビア社評判調査	・評判調査は、エルゼビア社のデータベースからランダムに抽出された研究者(地域や学問分野の偏りを調整)が優れている大学を最大15校回答。加えてその15校と重複のない大学を自国から6校回答。2019年11~2020年2月実施。回答者数は2万人以上 ・大学の総収入は、各国の購買力平価で調整			
	教員数*1/全学生数	4.5%				2017年	大学入力情報	
	博士課程学生数/学士課程学生数	2.25%				2017年	大学入力情報	
	博士号取得者数/教員数	6%				2017年	大学入力情報	
	大学総収入/教員数	2.25%				2017年	大学入力情報	
研究	評判調査<研究>	18%	2019, 2020年	エルゼビア社評判調査	・教育分野の評判調査と同じ			
	研究助成金および研究関連収入/教員数	6%				2017年	大学入力情報	・研究費は各国の購買力平価で為替調整 ・設置学部、学問分野に応じて標準化
	学術生産性 論文数/教員数+研究者数	6%				論文数は2015~2019年/研究者数は2017年	エルゼビア社Scopus/大学入力情報	・論文数はエルゼビア社のデータベースに登録されている学術誌に掲載された論文数 ・設置学部、学問分野に応じて標準化
被引用論文	1論文あたりの被引用回数	30%	30%	対象論文は2015~2019年刊行物、引用回数は2015~2020年	エルゼビア社Scopus	・学問分野による引用数のばらつきを調整 ・国ごとの補正値を合成したスコア		
産業界からの収入	産業界からの研究助成金および研究関連収入/教員数	2.5%	2.5%	2017年	大学入力情報	・各国の購買力平価で調整		
国際性	外国人留学生数/全学生数	2.5%	2017年	大学入力情報	・国際共著論文は、海外の共著者が最低一人が記載されている論文を対象 ・設置学部、学問分野に応じて標準化			
	外国籍教員数/全教員数	2.5%				2017年	大学入力情報	
	国際共著論文数/論文数	2.5%				2015~2019年	エルゼビア社Scopus	

*1 教員数: 授業を担当している教員のみ集計

除外条件

- ① 大学生(学部生)を教えていない大学
- ② 2015~2019年の研究論文の数が1000(年間で最低150)に満たない大学
- ③ 活動の80%以上が、THE側が定める8つの学問分野のうち1つだけに集中している大学(除外しないこともある)

世界大学ランキングから見た世界の高等教育と日本の大学

WORLD UNIVERSITY RANKINGS

コロナ禍によって一変した、世界の高等教育事情。大きな変化の中で自学の国際的なポジションを、どう向上させていくべきか。最新のTHE世界大学ランキングの結果を分析し、日本の大学が検討すべき戦略の方向性を探る。

【図表4】評判調査の設問内容

- ① 回答者の属性情報(所属大学、職種、専門学問分野等)
- ② 「世界」で「あなたの専門学問分野で最も研究力の高い大学」と思う大学を、15大学まで挙げてください。
- ③ 「あなたの経験に基づいて」「あなたの専門学問分野で最も研究力の高い大学」と思う大学を、10大学まで挙げてください。
- ④ 「世界」で「あなたの専門学問分野で最も教育力の高い大学」と思う大学を、15大学まで挙げてください。
- ⑤ 「あなたの経験に基づいて」「あなたの専門学問分野で最も教育力の高い大学」と思う大学を、10大学まで挙げてください。
- ⑥ 「あなたの国」で「最も研究力の高い大学」と思う大学を、6大学まで挙げてください。
- ⑦ 「あなたの国」で「最も教育力の高い大学」と思う大学を、6大学まで挙げてください。
- ⑧ その他、これまでの設問では回答として選ぶことができないが、優れていると思う大学を挙げてください。
- ⑨ あなたはどのような観点から大学が「優れている」と考えて選んでいるのかを教えてください。

【評判調査の概要】

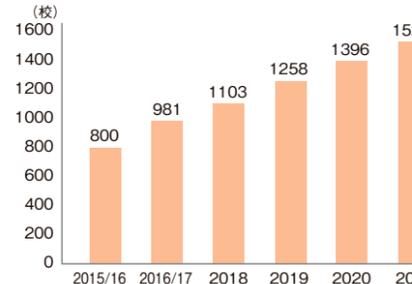
- ▶ 調査期間: 2019年11月~2020年2月
- ▶ 調査対象者: エルゼビア社のScopusに登録されている論文の著者
※ユネスコの人口分布に合わせて対象者を抽出、特定の国に偏ることはない。
※評判調査はインビテーションメールを受け取った教員や研究者のみが回答できる。
- ▶ 調査実施機関: エルゼビア社
- ▶ 調査の目的: Times Higher Education (THE) が作成する多くのランキング指標の1つとして使用する。
- ▶ 調査結果が使用されるランキング:
・THE World University Rankings
・THE Japan University Rankings
・THE World Reputation Rankings
・THE Asia University Rankings
・THE Young University Rankings

トップは中国の清華大学で、前年の23位から20位タイへ躍進。現行のメソッドロジーになってから、アジアの大学では初めてTOP20に食い込んだ。一方、日本の大学はTOP100に前年同様2校が入った。最上位は36位タイの東京大学。

ランキングの算出根拠となる5分野13指標は【図表3】の通りで前回から変更はなかった。ランキングに向き合う際に重要なのは、ここに掲げた指標とそのしくみを熟知し、そこから戦略を立てることにある。例えば、「教育」「研究」

の分野を構成する指標の一つである評判調査は、全指標に占める割合が33%と一番高い(「教育」分野: 15%、「研究」分野: 18%)。調査対象はエルゼビア社のScopus登録研究者で、【図表4】の質問が、メールで調査依頼されるしくみだ。あるいは30%を占める「被引用論文」。こちらもScopusを基に、1論文あたりの被引用回数(書籍も含む)がスコアになる。5年間で1000本以上の論文数の縛りはあるものの、引用されない論文の量はランキング向上には寄与しない。

【図表1】ランクイン大学数の推移



【図表2】THE世界大学ランキングTOP10

順位 2021 Rank	順位 2020 Rank	国/地域 Country/Region	教育機関 Institution
1	1	イギリス	オックスフォード大学
2	4	アメリカ	スタンフォード大学
3	7	アメリカ	ハーバード大学
4	2	アメリカ	カリフォルニア工科大学
5	5	アメリカ	マサチューセッツ工科大学
6	3	イギリス	ケンブリッジ大学
7	=13	アメリカ	カリフォルニア大学バークレー校
8	8	アメリカ	イェール大学
9	6	アメリカ	プリンストン大学
10	9	アメリカ	シカゴ大学

*この特集では、ランク付けされた数をランクイン数と表記しています。

「図表1」年を追うごとに、より広い地域から研究・教育の国際競争に参加する大学が増えてきていると言えよう。

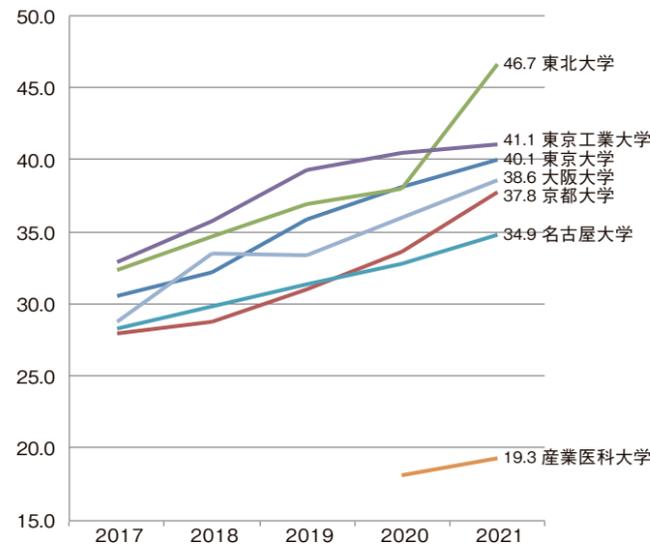
2020年9月、イギリスの高等教育専門誌THE (Times Higher Education) は、最新の世界大学ランキングを発表した。今回、ランクインしたのは、世界93か国・地域の1526校。ラテンアメリカや中東地域からの新たな参加が増えたことで、ランクイン大学数は過去最多を記録した

TOP10に目を向けると【図表2】「オックスフォード大学(イギリス)」が5年連続で1位の座をキープしたものの、2位は前年4位のスタンフォード大学(アメリカ)、3位は前年7位から順位を上げたハーバード大学(アメリカ)だった。前年3位だったケンブリッジ大学(イギリス)は6位に後退し、トップグループでのアメリカの躍進、イギリスの地位低下がうかがえる。

ランキングが始まって以来、アジアからは最多の16校がTOP10入りし、うち13校は前年から順位を上げるか維持している。

世界大学ランキング2021 結果分析

【図表7】日本の総合順位TOP5に入った大学の「国際性」スコア推移



「産業界からの収入」では、東北大学がスコアを6・6上げて、世界98位から75位に上がったことは注目値するだろう。「被引用論文」では、産業医科大学がスコアを100として、この分野の世界第1位タイに。日本医科大学はスコアを11・7アップさせ、国内順位を前年10位から6位に上げた。

課題だった「国際性」にスコア上昇の兆しが

今回、日本の大学は116校（国立57、公立12、私立47）がランキン。総合順位では東京大学が国内でトップの36位タイ。2位の京都大学は前年から11ランクアップさせて54位タイとし、3位の東北大学も前年から順位帯をアップさせて2011250に入った。

日本の大学の結果分析

ただし、順位（帯）が上がったのはこの2校のみで、23校もの大学が前年から順位（帯）を落とし、800位以降が多数を占める「裾野型」のランキング構造がさらに進んだ形となった。なお、今回初ランキンしたのは、獨協医科大学、金沢医科大学、高知工科大学、京都産業大学、大阪工業大学、龍谷大学の6校だった。

「教育」「研究」は上位にめだつた変化はないが、東北大学が「研究」のスコアを6・6上げて、世界98位から75位に上がったことは注目値するだろう。「被引用論文」では、産業医科大学がスコアを100として、この分野の世界第1位タイに。日本医科大学はスコアを11・7アップさせ、国内順位を前年10位から6位に上げた。

【図表8】THE世界大学評判ランキング2020結果

順位(内は前回)	機関名
10(11)	東京大学
23(27)	京都大学
61-70(71-80)	大阪大学
71-80(61-70)	東北大学
81-90(同)	東京工業大学
101-125	北海道大学
101-125	名古屋大学
126-150	九州大学
151-175	慶應義塾大学
176-200	理化学研究所
176-200	筑波大学
176-200	早稲田大学

「国際性」は長年、日本の大学の課題となっていたが、総合で国内5位までに入った大学の過去5か年の推移を見ると、どの大学もスコアを伸ばしている【図表7】。各大学の国際共同研究の推進、グローバル化への取り組みが成果を出しつつあるのではないかと。なお、THEは2020年11月に、世界132か国の研究者からの評判を基にした「世界大学評判ランキング2020」を発表した（200位まで公表）【図表8】。日本の12機関がランキンし、私立大学も2校が名を連ねている。この調査は次のランキングに反映される予定だ。

「国際性」で世界TOP100に入った国内大学は今回も現れなかったが、ここでも東北大学がスコアを8・6ポイント上げて、国内2位にランキングアップしている。「国際性」は長年、日本の大学の課題となっていたが、総合で国内5位までに入った大学の過去5か年の推移を見ると、どの大学もスコアを伸ばしている【図表7】。各大学の国際共同研究の推進、グローバル化への取り組みが成果を出しつつあるのではないかと。なお、THEは2020年11月に、世界132か国の研究者からの評判を基にした「世界大学評判ランキング2020」を発表した（200位まで公表）【図表8】。日本の12機関がランキンし、私立大学も2校が名を連ねている。この調査は次のランキングに反映される予定だ。

アを86・4↑97・4に上昇させ、世界74位↓42位にまでアップさせている。名古屋大学もスコアを上げて、世界88位とTOP100に足を踏み入れた。

【図表5】主要国／地域別の各順位帯別ランキン数

順位	アメリカ	日本	イギリス	中国	インド	ドイツ	フランス	台湾	オーストラリア	韓国	カナダ	香港	シンガポール
1~100	37	2	11	6	0	7	3	1	6	2	5	3	2
101~200	22	0	18	1	0	14	2	0	6	5	3	2	0
201~300	22	1	8	2	0	10	3	0	10	1	6	0	0
301~400	18	4	11	6	2	7	5	2	5	2	2	1	0
401~500	19	3	12	7	1	3	4	2	1	0	2	0	0
501~600	11	3	6	11	0	1	6	3	4	1	3	0	0
601~800	26	7	14	17	15	5	10	1	2	5	5	0	0
801~1000	18	13	14	25	15	1	7	9	3	6	3	0	0
1001+	8	83	7	16	30	0	1	20	0	13	1	0	0
総計	181	116	101	91	63	48	41	38	37	35	30	6	2

【図表6】TOP200内の国／地域別校数とトップ校

国／地域	校数(内は前回)	国／地域内で最高順位の教育機関とその順位
アメリカ	59(60)	スタンフォード大学 2位
イギリス	29(28)	オックスフォード大学 1位
ドイツ	21(23)	ルートヴィヒ・マクスミリアン大学ミュンヘン 32位
オーストラリア	12(11)	メルボルン大学 △31位
オランダ	11(11)	ヴァーヘニンゲン大学 ▼62位
カナダ	8(7)	トロント大学 18位
スイス	7(7)	スイス連邦工科大学チューリッヒ校 ▼14位
中国	7(7)	清華大学 △20位
韓国	7(6)	ソウル大学 △60位
香港	5(5)	香港大学 ▼39位
スウェーデン	5(5)	カロリンスカ研究所 △36位
フランス	5(5)	PSL研究大学パリ ▼46位
ベルギー	4(4)	ルーヴェン・カトリック大学 ▼45位
デンマーク	3(3)	コペンハーゲン大学 △84位
イタリア	3(3)	ボローニャ大学 ▼167位
スペイン	3(2)	ボンベウ・ファブラ大学 ▼152位
シンガポール	2(2)	シンガポール国立大学 25位
日本	2(2)	東京大学 36位
フィンランド	1(2)	ヘルシンキ大学 ▼98位
南アフリカ	1(2)	ケープタウン大学 ▼155位
台湾	1(1)	国立台湾大学 △97位
ノルウェー	1(1)	オスロ大学 △127位
ニュージーランド	1(1)	オークランド大学 △147位
アイルランド	1(1)	トリニティカレッジダブリン △155位
オーストラリア	1(1)	ウィーン大学 ▼164位
ロシア	1(1)	M.V.ロモノーソフモスクワ国立総合大学 △174位
イスラエル	1(1)	テルアビブ大学 ▼191位

※「△」：前回よりアップ／「▼」：前回よりダウン(いずれも前回のトップ大学の順位との比較)

さらに、コロナ禍の影響から、多くのアメリカの大学は財政危機に見舞われた一方で、政府からの援助が大きい中国の大学はさほど打撃を受けていない。THEチーフ・ナレッジ・オフィサーのフィッセル・ベイティ氏は「学生と教員の国際的流動性が下がることによって欧米の大学の資金調達に難しければ、アジアの大学はさらに勢いづく」との見解を述べている。

1001+の順位帯に集中する日本の大学

国／地域別の状況に目を移そう。【図表5】は主要国／地域別のランキン数を示したものだ。めだつのはインドの躍進だ。今回、初ランキンした全141校中、最多の14校を占め、ランキン数は過去最多の63校となった。東アジア勢に目を向けると、前年から日本は110↓116校、中国は81↓91校、韓国31↓35校とランキン数が増加している。ただし、中国はTOP100のランキン数を前年の3校から6校

（清華大学、北京大学、復旦大学、中国科学技術大学、浙江大學、上海交通大學）に増やしたのに対して、日本は2校（東京大学、京都大学）のみだ。日本はランキン数世界第2位を堅持しているが、約7割が1001+に集中している。なお、一般的に国際的にプレゼンスが高いと見なされるTOP200に入る大学の国／地域別の数は、【図表6】の通りだ。

勢の台頭を受けて英米の地位が相対的に低下するという状況が浮かび上がった。中期的に見ても中国の進展は著しく、2015/16年版ランキングで2011-300の順位帯に位置していた4大学のうち3大学が、最新ランキングで100位以内に入ってきた。対照的にアメリカでは、2015/16年の2011-300の順位帯に位置していた大学が100位以内に入った例はない。THEは「ランキン中位レベルで見ると、中国の大学の研究の質は、アメリカの大学を上回りつつある」と指摘している。

アジア勢の躍進はコロナ禍後も続くのか？

今回のランキングでは、アジア

*「=」:同順位/「-」:ランク外/世界の総合順位についてのみ「△」:前回よりアップ/「▼」:前回よりダウン/「◎」:初ランクイン
*同ランクでの掲載順は原則大学名の英語表記のアルファベット順による *各分野の「世界順位」は、各分野内での順位を示す

国立 公立 私立

世界ランキング2021 日本の大学の結果一覧

国際性 国内TOP50

Table with 4 columns: 国内順位, 世界順位, 教育機関, スコア. Lists top 50 universities for internationality.

産業界からの収入 国内TOP50

Table with 4 columns: 国内順位, 世界順位, 教育機関, スコア. Lists top 50 universities for industry income.

被引用論文 国内TOP50

Table with 4 columns: 国内順位, 世界順位, 教育機関, スコア. Lists top 50 universities for cited papers.

研究 国内TOP50

Table with 4 columns: 国内順位, 世界順位, 教育機関, スコア. Lists top 50 universities for research.

教育 国内TOP50

Table with 4 columns: 国内順位, 世界順位, 教育機関, スコア. Lists top 50 universities for education.

総合順位 (全ランクイン大学)

Large table with 10 columns: 国内順位, 世界順位, 世界順位2020, 教育機関, アジア順位, 日本版順位, 総合順位2020, 総合順位2021. Lists all ranked universities.

芸術・人文科学

Table with 3 columns: 順位, 教育機関, 総合スコア. Lists top universities in arts and humanities.

心理学

Table with 3 columns: 順位, 教育機関, 総合スコア. Lists top universities in psychology.

経営・経済学

Table with 3 columns: 順位, 教育機関, 総合スコア. Lists top universities in business and economics.

教育学

Table with 3 columns: 順位, 教育機関, 総合スコア. Lists top universities in education.

物理科学

Table with 3 columns: 順位, 教育機関, 総合スコア. Lists top universities in physical sciences.

生命科学

Table with 3 columns: 順位, 教育機関, 総合スコア. Lists top universities in life sciences.

工学

Table with 3 columns: 順位, 教育機関, 総合スコア. Lists top universities in engineering.

医学・健康学

Table with 3 columns: 順位, 教育機関, 総合スコア. Lists top universities in medicine and health.

学術分野別ランキング 2021結果

社会科学

Table with 3 columns: 順位, 教育機関, 総合スコア. Lists top universities in social sciences.

コンピュータ科学

Table with 3 columns: 順位, 教育機関, 総合スコア. Lists top universities in computer science.

*法学ではランクインなし
*論文検証対象は過去5年間での該当分野の論文数、該当分野の在籍する教員の割合や人数(FTEベース)を基に評価。論文数や教員の割合、人数の条件は分野により異なる

知っておきたい THE ランキングの新たな動き

新たな指標の導入、格付け、学生パネルも

今後のTHE世界大学ランキングの動向として最も注目すべきは、指標の変更だろう。現時点で「被引用論文」のベースとなった指標はFWCI（P.25参照）だが、今後は「被引用論文」を構成する指標が3つ程度に増えると言われており、より多角的に論文の有効性が測れるようになると思われる。指標の変更に関する情報が発表されるのは2021年9月の予定。新たな指標が反映されたランキングが発表されるのは2022年になる見込みだ。

また、THEは2020年7月に「THE China Subject Ratings」を発表した。これは中国教育部が設定する学術分野分類（89学術分野）に基づいて世界の大学を格付けし、中国の大学と比較したもの。THE世界大学ランキング2020のデータを用い、11の指標で各大学の各学術分

野をA+~C-の9段階で格付けしている。全世界の1355大学が対象になっており、日本の大学も88大学が格付けされている。

加えて、THEがオンライン上で定期的な「学生パネル」を実施し、学生の声を集めようとする動きもある。日本でも文部科学省が全国学生調査を試行実施したが、世界的に「最大のステークホルダーである学生の声にもっと耳を傾けよう」という流れができてきたのではないかと。

そのほか、日本の大学が注目したいのは「THEアワードアジア」だ。これは、従来の大学ランキングとは異なり、大学の卓越した改革の取り組み内容に賞を与えるもの。「リーダーシップとマネジメント」「国際戦略」「教育学習戦略」など10のカテゴリごとにベストプラクティスを表彰する。10のうち8カテゴリーは自薦でエントリーできる。改革の内容が優れたものであれば、国際的にスポットライトが当たる可能性がある。最

日本の大学6校が最終選考に残った THEアワードアジア2020

2020年のTHEアワードアジアでは、250の大学が応募し、日本の大学は6校（7カテゴリー）が最終選考に残った。その中で沖縄科学技術大学院大学（OIST）は「学生募集活動」のカテゴリで大賞を受賞している。

最終選考に残った日本の大学

カテゴリー	最終選考に残った日本の大学	大賞受賞大学
学生募集活動	東京理科大学、 沖縄科学技術大学院大学 (OIST)	沖縄科学技術大学院大学 (OIST)
教育・学習戦略	藤田医科大学	アン・ナジャ国立大学 (パレスチナ)
地域・社会に対するインパクト※	東京大学	成均館大校 (韓国)
テクノロジーによる革新	東京理科大学	清華大学 (中国)
組織の活性化	梅光学院大学	KIIT (インド)
国際戦略	昭和女子大学	南方科技大学 (中国)
学生支援	沖縄科学技術大学院大学 (OIST)	Katalyst、ブネ工科大学、 ピールマタジャバ工科大学 (インド)

*カテゴリーはそのほかに、「芸術の振興」「データポイントメトリックアワード」「リーダーシップとマネジメント」など全10カテゴリー。
※データを基に自薦でなくTHEと審査員が選考

終選考に残るだけでも海外に向けてのよいアピール材料になるので、自学の実績や特色に強みを持つ大学は参加を考えてはどうか。加えて、昨年9月に始まったオンライン教育の好事例を共有するプラットフォーム「THE Campus」も注目に値するだろう。

世界の社会状況が大きく変化中、海外の高等教育の動きを把握し、国際的なネットワークを築くことはますます重要になる。コロナ禍でTHEのイベントもオン

ライン開催が増え、日本にいながらにして世界のトレンドを知り、国内外の大学から改革のヒントやアイデアを収集することも可能になっている。チャット機能も設けられているので、海外の高等教育関係者と気軽にコミュニケーションが取りやすい。

さらに本年6月には藤田医科大学がホストとなる「THEアジア大学サミット」が開催予定だ。高等教育の世界的な潮流を知るために、ぜひ参加いただきたい。

性に気づき、最近では龍谷大学のように、中長期計画の指標としてランキングを使う大学が増えてきています。これは、さまざまな大学の教育、研究、評判のデータが含まれるランキングデータが、ベンチマーキングに使いやすいことに理由があります。ベンチマーク校と比べての強み弱みを把握し、強みを伸ばす戦略をとるのか、それとも弱みを補強する戦略にするのかといった、限られたリソースを最大限に生かすための意思決定がしやすいのです。

限られたリソースをどう生かし、改革につなげるか

ランキングを大学改革に活用する際、下図のようなランキングマネジメントサイクルが有効な手だてとなります。これは、ランキングエントリーを起点に「結果分析」→「戦略立案」→「実行」→「総括」といったPDCAサイクルを回していくというもの。そのポイントを紹介しましょう。

まず、エントリー時に重要なのは「共通の目標を立てる」こと。どのランキングで、どのあたりの順位やスコアを何年かけてめざすのか。これが改革の土台になります。次に結果分析です。研究や教育の強み、課題をベンチマーキングによって把握し、それを基に戦略を立てます。そして、実行、総括を行い、また目標との差を確認し、次の計画行動に生かします。ランキングマネジメントの利点は、「限られたリソースの中で、大学の強みを最大限生かし、改革を実行していること」にあります。その意味で、大学経営における意思決定には欠かせない手段と言えるでしょう。

日本が世界の中で存在感を高めるためには、国内の大学が協力することも有益ではないでしょうか。そこで私たちは、各大学の取り組みを共有し、知見を持ち帰って自学の戦略に生かす情報交換の場として、「ランキングマネジメント研究会」を設立しました。現在、9大学が参加しており、今後はSDGsへの貢献度を測るインパクトランキングマネジメント研究会の開催も検討しています。ご期待ください。

大学経営の意思決定を支援する ランキングマネジメントの重要性



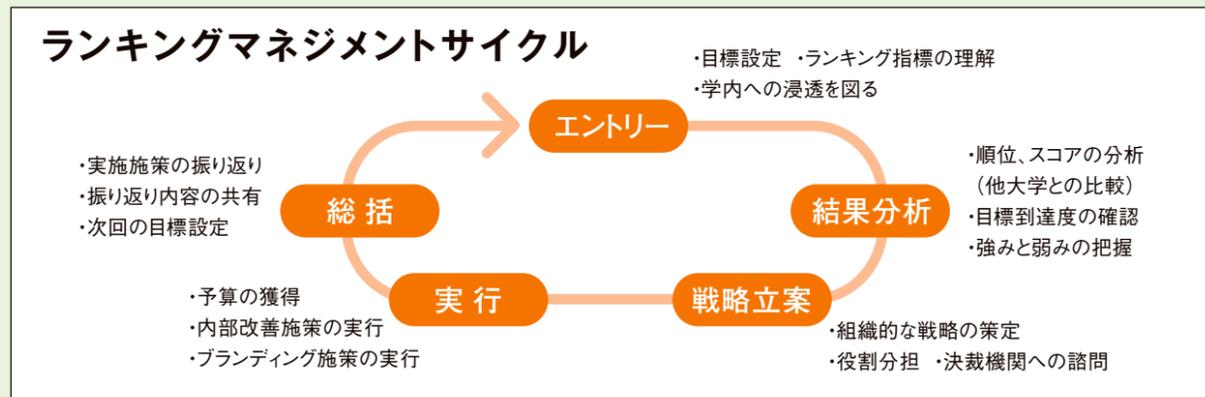
(株)進研アド
マーケティング戦略部
矢能京香
やのつきょうか ●近畿圏の大学改革支援を経て、国内外の大学のブランディング支援を行う。

国際的な競争が激化する中 ブランディングにどう取り組むか

折からのコロナ禍によるコミュニケーションのオンライン化で、国際的な学術連携が活性化しています。協定を結ぶか結ばないか判断する際には、国際的な評価の裏付けとして世界ランキングを利用する大学があるようです。また、海外留学希望者への奨学金支給の条件にランキング上位校への留学を課す国もあり、留学生獲得にもランキングは影響します。このように、ランキングの活用は、国際戦略の重要項目だと言っても差し支えないでしょう。

国際的な競争が激化する中で、ランキングにおける日本の大学の最大の課題は、指標の33%を占めるレピュテーションです。世界的な評判を高めるためには、全学を挙げての改革やブランディングが必須ですが、縦割り組織の中それがかなわず、各部署の努力がブランディングにつながらない大学が多いようです。しかし、今回ランキングで順位帯を上げた東北大学のように、全学一体で戦略的国際化を進める大学もあります。ブランディングは大学の総合力を示すものであるため、各部署を巻き込んだワーキンググループをつくって取り組むなど、組織体制が重要です。

さて、ランキングの本来の目的は順位を上げることではなく、「改革を促進するための客観データとして活用すること」、そして「第三者評価の一つとして、自学のブランディングにつなげること」です。その有用



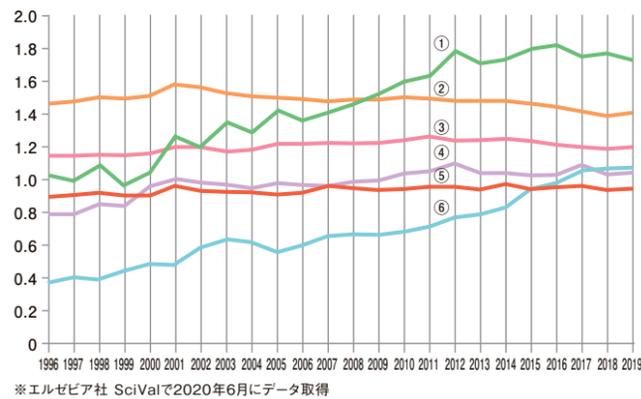
【図表2】FWCI(Field Weighted Citation Impact)の定義

定義 1論文当たりの被引用数を、同じ出版年・同じ分野・同じドキュメントタイプの論文の世界平均で割った数値

$$\text{文献P(1)のFWCI} = \frac{\text{文献P(1)の被引用数}}{\text{文献P(1)と同じ発表年、分野、文献タイプの文献集合の平均被引用数}}$$

$$\text{文献集合P(1)-P(N)のFWCI} = \frac{\text{P(1),P(2),P(3)...P(N)のFWCIの平均}}{\text{FWCI「1」}} = \text{世界平均}$$

【図表1】主要各国(地域)におけるFWCIの推移



【図表4】研究力を高める3つのステップ

ステップ	1 データ分析	2 戦略の立案	3 連携して取り組む
ポイント	▶ 自学の研究について、継続的、多角的にデータを分析して正確に把握する	▶ 1に基づき大学として限られたリソースをどう使って研究力を上げるかを考える	▶ 学内、国内、国際的な共同研究の推進とそれを促す評価制度やデータシェアリングのしくみを設ける ▶ 各部門が連携して研究力強化に取り組む

【図表3】THE世界大学ランキングは、FWCI(平均の質)の値と関連~THE世界大学ランキングに基づく、バンドごとの指標平均

THE世界大学ランキングのバンド	論文数	被引用数	FWCI
1-50位平均	37,342	689,933	2.08
50-100位平均	23,862	383,090	1.87
101-200位平均	16,055	240,400	1.79
201-300位平均	13,375	164,401	1.63
301-400位平均	8,684	106,946	1.54
401-500位平均	8,142	83,686	1.40
501-600位平均	8,535	78,884	1.28
601-800位平均	6,328	49,591	1.09
800+位平均	4,649	27,551	0.82
全体の平均	11,423	148,814	1.40

本の大学は、ランキングの是非を議論する前に、まずは先入観を捨て、現実を直視すべきでしょう。このFWCIとTHE世界大学ランキングの順位は相関関係があります【図表3】。ランキングのバンドが高いほど、FWCIの値が高く、同ランキング1・50位バンドに入る大学の値は、平均2.08。ところが、このバンドに位置する東大の値は1.34でした。これは、東大がFWCIではなく、「評判」などほかのスコアが高いことを示唆しています。

ただし、このFWCIという指標には、突出して被引用数が多い論文が1本あるだけで一気に数値が上がってしまうという特徴があります。それが大学全体の研究力を表しているのかといえば、やはり疑問符が付きます。

私は2016年より研究力の測り方について研究を重ねてきた結果「量」と「質」だけでなく、「厚み」という観点も加えるべきだと考えるに至りました。「厚み」とは、大学の総合的な研究力を測るべく、分野別に一定の引用のある論文に分析することが不可欠です。今年からTHE Eランキングでは、各大学の指標ごとのデータも開示されるようになっていきます。データポイント、ScopusやSciValなどを導入しているのなら、宝の持ち腐れにせず、自学の研究力の分析にしっかりと活用すべきでしょう。

次は「戦略の立案」です。研究費が潤沢とは言えない日本だからこそ、戦略が必要です。例えばシンガポール国立大学のように、特定分野に優秀な研究者と資金を集中投下し、一点突破することが資金的に難しい日本においては、「厚み」に注目し、良質な論文を継続的に出すような環境を整え総合的に研究力を高めていく、という戦略もあります。もし厚みが年々増していく分野があれば、そこに投資し、大学の強みとして育てていく。いずれにしろ、継続的かつ詳細なデータ分析があつてこそできる施策です。

最後は、それらを「連携して取り組む」こと。例えばFWCIは国際共同研究の数と相関関係があります。このため文部科学省は数年前から高等教育機関の国際連携を促す政策に取り組んでおり、その結果、国際連携の協定数は増えました。が、日本のFWCIは一

文の数がどの程度あるかを測定したものです。しかしこの指標も分野ごとの引用数の差が大きいという欠点があります。

これら研究力測定の各種問題について、THE Eと議論したところ、THE側もFWCIの課題は十分に認識しており、今後は他の指標も組み合わせて、スコアを算出する意向のようです。このように研究力を測るための完璧な指標はありません。しかし、今、日本の大学にとって重要なのは、自学の研究力を正確に把握することそのものではないでしょうか。それなしでは課題もわからず、向上のための戦略を立てようがありません。万能な指標はないことから、FWCIやTOP10%論文割合、「厚み」など、多様な指標を用いて分析することが、研究力のより正確な把握につながるでしょう。

【図表4】は、研究力の向上に向けての取り組みを3つのステップにまとめたものです。まず最初にやるべきは「データ分析」です。もし自学が世界ランキングに入っているのであれば、スコアの基になったデータを大いに活用し、精

向上が上がりません。なぜなら協定を担当する国際部門と研究部門が連携しておらず、協定を増やしても論文の被引用数向上などに結びついていかないからです。これは大学側が反省すべき点だと思います。

研究者同士の連携のなさも課題です。もはや自分だけで解決できる問題もなく、特にコロナ禍は格好の学際的な研究テーマです。今こそ隣の研究室と共同研究を始めましょう。まずは学内、そして国内、海外と、徐々に連携先を広げて研究力を高めていく。これを進めるには、共同研究を促す評価制度やデータシェアリングのしくみがあるといいでしょう。もちろん、その全てを研究者自身で行うのではなく、URAの支援が必要です。このように大学の研究力向上を阻んでいるのは、実は、縦割り組織と言えます。

連携という点では、ランキングへの対応も然りです。国際部や総務部に任せきりにせず、各部門でデータやスコアを共有し、エントリーデータやスコアを高める施策に取り組むことが欠かせません。研究力やランキングで試されているのは、大学の総合力。コロナ禍で、その重要性はますます高まっています。

【図表1】は、研究力の向上に向けての取り組みを3つのステップにまとめたものです。まず最初にやるべきは「データ分析」です。もし自学が世界ランキングに入っているのであれば、スコアの基になったデータを大いに活用し、精

withコロナ時代の研究力とランキング

OPINION

小泉 周

自然科学研究機構 研究力強化推進本部 特任教授

こいずみあまね ●1997年慶應義塾大学医学部卒業。2002年慶應義塾大学医学部生理学教室助手。ハーバード大学医学部、マサチューセッツ総合病院、ハーワード・ヒューズ医学研究所の研究員を経て、2007年より自然科学研究機構生理学研究所准教授。2013年より現職。医師、医学博士。

日本の研究力を高めるために、各大学が今なすべきことは何か？ 研究力評価の専門家に聞く。

思い込み、縦割り、戦略のなさ… 研究力低下を招く3つの要因

日本の研究力をめぐる3つの誤解

研究力を測るランキングの話になると、「ランキングの順位は大学の研究力を適切に反映していない」「日本の研究力は、昔は高かったのに…」「日本は中国に論文量で負けているが、質は負けていない」といった声を聞きます。本当でしょうか？

ここでクイズを出します。【図表1】は6つの国・地域のFWCI、つまり論文のインパクトを示す指標の推移を表したものです。日本は①〜⑥のどれでしょうか？

正解は赤の⑤です。①はシンガポール、②はアメリカ、③はEU、④は韓国、⑥は中国の推移です。FWCIは論文の質を測る指標です。被引用数を同じ分野・出版年・文献タイプの論文の世界平均で割った数値で、世界平均は「1」です【図表2】。2019年現在の日本の平均値は0.96ですが、実は過去にさかのぼっても日本はずっと平均以下であり、2015年には中国に抜かれています。日

コロナ禍で試される大学の総合力

【図表4】は、研究力の向上に向けての取り組みを3つのステップにまとめたものです。まず最初にやるべきは「データ分析」です。もし自学が世界ランキングに入っているのであれば、スコアの基になったデータを大いに活用し、精

*1 ランキングデータ分析ツール *2 研究業績分析ツール *3 抄録・引用文献データベース *4 University Research Administrator

取材・文/本間学 撮影/荒川潤

教育・研究のグローバル・ハブへ オンライン上での国際交流を積極展開



シンギュラリティ 成均館大学校

2020年にアジアランキングトップ10入りを果たした韓国最古の大学、成均館大学校。国内外の人材が交流できるオンラインプラットフォームを提供し、世界での評判を高めて、さらなるポジション向上を狙う。

世界トップを意識した国際戦略

「最高の知見と人材ネットワークを備えたグローバル・ハブになること」をゴールに掲げた国際戦略「Vision2020+」では、4つの目標を掲げています。最高レベルの教育によってグローバルリーダーを育成する「Global Power Elite」、世界クラスの研究成果を出す「Research with Impact」、世界から選ばれる人材を輩出する「Globally First Choice」、世界からの評価に構成員が誇りを持つ「Pride in Top」です。

この達成に向けて、例えば教育においては学際的な学びに力を入れています。AI、フィンテック、再生可能エネルギー、ドローン、次世代自動車などの専攻を新たに設けました。研究面では、1996年から経営に参画しているサムスン財団の支援も得て優秀な人材を積極的に招致。2011年に1000人だった研究者数は、現在は1500人を数えます。研究活動に対する助成は惜しみなく行っていますが、次世代を担うポストドクおよび大学院生・学部生については、生活費もサポートし、研究を奨励しています。また、共同で高価な研究機器を使う共同研究機器室も設置しています。

国内外の知を融合させる新たな場を提案

本学では2003年にLMSを導入していたことから、コロナ禍を受けたオンライン授業への切り替えはスムーズに進みました。留学生についても、自国での試験を含む全ての学習活動を、オンライン環境で実施できています。しかし、コロナの流行収束後も以前の教育環境には戻らないと考えており、新しい教育システムの構築に向けたさらなる検討、投資を続けています。例え

戦略・企画室長 林宰煥

リン・ジェファン ● 2005年に入社して以来、一貫してIRと評価を担当、主に世界的なブランドの評判の測定を通じて大学の国際戦略計画に関わる。各種大学ランキングデータ責任者。



ば、次世代の授業プラットフォームをつくるプロジェクト「ExCampus」はその一つ。“拡張キャンパス”の名の通り、誰もがいつでも学習に参加できる環境を生み出すことが目的です。まず第1シーズンとして本学の教員11人による講義をYouTubeにアップしており、第2シーズンは国内他大学の教員、2021年初頭の第3シーズンには外国人の教員による講義の提供を予定しています。

研究面でも、オンラインを活用して国際的な学会や会議を積極的に開催しています。2020年6月にはオンライン学会「Post COVID-19 world (ポストコロナ社会)」を主催し、多様な国・地域から社会科学分野の研究者が参加しました。また、「Global K-BioX」は、スタンフォード大学による生命科学分野の共同研究組織「BioX」の韓国支部として2020年に設置したもので、韓国、アメリカ、そして世界中の科学者の人材・情報交流の場となることをめざしています。スタンフォード大学の研究者、シリコンバレーの起業家30人によるビデオセミナーを開催し、ポストドクや大学院生も含め、多くの研究者が参加しています。

2021年初頭には、第4次産業革命を支える人材を育成する次なる戦略、「Vision2030」を発表する予定です。この新たなビジョンにのっとり、ニューノーマルの時代にふさわしい教育・研究の形を、今後も世界に問いかけ続けていきたいと考えています。

注目! ビジョンを基に改革を断行 アジアトップ10入り達成

同大学の戦略・企画室は、「Vision2020+」の達成に向け、教職員や学生への周知を徹底している。「2020年までにアジアトップ10入りを目標に掲げ、それを果たしたが、これはさまざまな改革の結果であり、大学の成長を示す証拠の一つ。全メンバーにビジョンが共有できたら、皆の力でランキングは自然に上がると信じています」と語る。



「[学内の誰もがビジョンを常に思い出せるように]とキャンパスの至る所にビジョンのポスターを掲示



学生数 / 約23300人
学部 / 教養、教育、社会科学、芸術、理、情報通信、工、生命工、薬、医など
大学院 / 教養学、法学、理学、生命工学、医学など
THE世界大学ランキング2021 / 総合=101位
同アジア版2020 / 総合=10位

危機対応で世界に存在感を示す 全学が一丸となり最新の知見を発信



シンガポール国立大学

学生・卒業生を手厚くケアしつつ、コロナ禍に正面から立ち向かい、トップ大学としての社会的意義を果たす。

コロナ禍で高めた人材育成機能

全ての大学がニューノーマルへの対応を迫られている現在、本学も変革を続けています。すでに2011年からICTを活用した教育を、2013年から対面とオンラインのブレンド型学修を試行してはいましたが、コロナ禍により導入が一気に進展。2020年4月に、全授業をオンライン化しました。留学が一旦保留になった学生に対しては、派遣先で身に付けるはずだった力を補う意味で、国内でのインターンシップの機会を提供。また、留学を夏学期まで延期したうえで、無償で休学できるオプションも用意しました。留学生に対しては、募集活動や入試はその大半をオンラインで行っています。

在学生だけでなく、コロナ禍で就職が厳しい2020年度の卒業生への支援も行っています。本学では2020年4月から、卒業生の能力を高めるための包括的なコースとプログラム「NUS Resilience and Growth (R&G) Initiative」を開始しました。これは、1000人分のフルタイム就職口と有給のトレーニングを提供するものです。さらに、創立115周年記念の一環として、卒業生による115の有意義なプロジェクトを支援する「R&Gイノベーション・チャレンジ」を企画、選ばれたプロジェクトには、6か月間、最高5万シンガポールドル*1の資金を提供します。これからの新しい働き方に備えるためには、長期的な視点で教育を行う必要がありますが、本学ではすでに20年にわたり学籍を保証し、卒業後も再教育を受けられる「NUS Lifelong Learners programme」*2を2018年から設けており、生涯学習の精神を学生に浸透させつつあります。卒業生はこの制度により、キャリアアップのためのワークショップやコースを受講したり、キャリアチェンジの際に新たな知識スキルを身

首席広報官

Ovidia Lim-Rajaram

オヴィディア・リム・ラジャラム ● NUS卒業後、マコーリー大学で国際コミュニケーション修士号取得。NUSのCCO (Chief Customer Officer)として、評判管理、マーケティング、デジタル・コミュニケーション、危機管理など、大学のブランディングとコミュニケーションを統括。また、学長のプレス・セクレタリー、大学のスポークスパーソンも務める。



に付けたりと、いつでもNUSで学びなおすことが可能です。

社会の危機と戦ってこそ示せる大学の価値

世界中に危機が及んでいるこの状況は、大学がその存在意義を国際社会に示すときでもあります。本学はコロナウイルスとの戦いに積極的に参加しています。迅速な診断・治療の円滑化、公衆衛生のモデル化、医療データの収集と提供の自動化、オンライン上のデマ対策など、情報とテクノロジーを駆使したソリューションを提供しています。ワクチン開発については、Duke-NUS Medical Schoolがアメリカのバイオテクノロジー企業と協力し、国内の臨床試験では一定の有効性が認められるまでに至りました。

大学人であれば誰もが、今回の危機に瀕して「大学の価値」を改めて考え直したはず。未曾有の困難の打破に向けて、世界中のさまざまな大学が起こした行動は、それぞれの地域に、また世界全体に大いに貢献したことでしょう。大学はこうした社会貢献の役割を維持しつつ、学生に対する教育や評価の方法、また彼らとのコミュニケーションの取り方を大きく変えていかねばなりません。ポストコロナに向けて各大学がどんな進化を遂げるのか——高等教育の未来を左右することになるでしょう。

注目! 一人ひとりの発信活動が 大学の評判を増幅させる

コロナ禍に対する情報発信に大学全体で取り組む同大学。公衆衛生学部は国際的な研究者、政策立案者向けに、世界の研究をまとめて定期的にレポート、医学部は市民向けに教育的マンガシリーズを制作し人気を博している。こうした発信活動を広報部だけでなく全構成員が担い、各々がスポークスマンの役を果たすことにより、国際的な評判を高めている。



市民向けの啓蒙漫画「The COVID-19 Chronicles」はイタリア語、フィリピン語、日本語にも翻訳もされている。



学生数 / 約40000人
学部・大学院 / 人文・社会科学、経営学、コンピュータ科学、歯学、デザイン・環境学、工学、総合科学・工学、法学、リベラルアーツ、医学、音楽、公衆衛生、公共政策、科学
THE世界大学ランキング2021 / 総合25位
同アジア版2020 / 総合3位

*1 日本円にして約388万円相当
*2 一部無料の科目もある。大学院進学を希望する場合は3年間にわたって学費の支払いを融通できる

取材 / 編集部 文 / 児山雄介



所在地／宮城県仙台市
 学生数／約16400人
 学部／文、教育、法、経済、理、医、歯、薬、工、農
 大学院／文学、教育学、法学、経済学、理学、医学系、歯学、薬学、工学、農学、国際文化、情報科学、生命科学、環境科学、医工学
 ▶THE世界大学ランキング2021／201-250位、同評判ランキング2020／71-80位、同学術分野ランキング2021／[工学]＝75位、同インパクトランキング2020／97位、同アジア版2020／30位、同日本版2020／1位

写真提供：東北大学

withコロナの国際戦略・取り組み

	国際戦略	コロナ禍での取り組み
教育	国内外から優秀な学生・教員を引きつけ、大変革時代の社会を世界的視野で力強く先導するリーダーを育成 ▶ポイント制でグローバルリーダー認定を行う「東北大学グローバルリーダー育成プログラム」の実施 ▶国際共同大学院プログラムによる国際協働教育の充実 ▶国際学位コース等への留学生の積極的受け入れ など	「Be Globalプロジェクト」で、オンラインの活用を推進 ▶交換留学、短期留学、留学準備支援のオンラインでの実施 ▶対面授業が主流であった国際必修科目のオンライン化 ▶留学生受け入れプログラム(交換留学・短期留学)と入学前予備教育のオンライン展開 ▶留学生オンラインヘルプデスクの開設 など
研究	卓越した学術研究を通して知を創造、新たな学問領域の開拓とイノベーション創出を推進 ▶世界に卓越した強みを有する「材料科学」「スピントロニクス」分野、世界に先駆けて創成すべき「災害科学」「未来型医療」分野で世界トップレベル研究拠点を形成 など	▶ポストコロナ時代のレジリエントな社会構築に向けた研究を学内のファンドで重点的に支援 ▶オンラインセミナーの開催を全学的に支援、奨励し、社会とのつながりを強化 など
産学連携・社会連携	グローバルイノベーションキャンパスや国際ネットワークを舞台に国際産学連携を展開。「社会とともにある大学」として、多様な世界的社会課題の解決に向け先導的役割を果たす ▶ビジョン共創型パートナーシップに基づく、グローバル企業との大型産学連携の加速 ▶世界的社会課題の解決への貢献 など	▶「スタートアップ・ユニバーシティ宣言」。国内大学初のベンチャー創出支援パッケージを創設し、経営者候補人材の確保、ファンドによる資金提供、同窓会組織と連携した人的支援等を実施。新産業の創出を加速させる ▶感染予防対策のeラーニング動画を作成し、ホームページで公開 など
広報	戦略的広報の推進 ▶クオリティーの高いウェブページ、ソーシャルメディア等を活用し、ステークホルダーに応じた適切な情報発信を推進 ▶海外の同窓会との連携、国際シンポジウムの開催・招致 ▶海外拠点・コンソーシアム等を活用した多様な機関等との連携による情報発信体制の強化 など	戦略的広報を継続しつつ ▶オンラインを活用した国際シンポジウム、海外同窓会等イベントの実施 ▶オンラインによる海外高校生に向けた大学説明会 ▶オンラインオープンキャンパスを利用した本学のグローバル教育の国内高校生向け広報 など

注目! オンラインを活用した国際教育の新たな形を模索

東北大学グローバルラーニングセンターは、ニューノーマル時代の社会変革を先導する目的で、2020年4月に「Be Globalプロジェクト」を立ち上げた。海外に赴く(=Go Global)ことが難しい時代において、グローバル人材になる(=Be Global)ための、新たな国際教育モデルの構築をめざす。

2020年度前期には、日本人学生と学内外の留学生が協働プロジェクト等に取り組む「国際共修」をオンライン化。後期は時差の小さいオーストラリアやアジアも対象に加え、より多地域の留学生と協働している。また同じく2020年度後期から、オンラインによる留学生の受け入れも開始。これまで留学生に提供していた科目や研修の一部をオンライン化したほか、協定校5大学を対象に新たな受け入れ枠を設け、移動を伴わない国際交流を活性化させている。

Be Globalプロジェクトの取り組み例

入学前教育

- 総合型選抜等合格者を対象とした入学前海外研修をオンライン化。対象者も拡大。
- 国際学士コースでオンライン入学前教育を提供。

アウトバウンド

- 海外トップレベルの協定校と共同開発したオンライン海外短期研修プログラムを実施、拡充。
- 海外協定校にオンラインで交換留学をする制度を整備。

インバウンド

- 既存の交換留学プログラムの一部をオンライン化。受け入れ枠を拡充。
- 世界各国でオンラインによる留学説明会を実施。

国際戦略のマネジメント強化 “選択と集中”と全学の意識改革



東北大学

国際ネットワークの連携方針を「拡大」から「戦略重視」へと切り替えた東北大学。多様なパートナーとの国際協働の深化を加速させている。



国際戦略室 副室長 教授 米澤彰純

よねざわあきよし ●東京大学大学院教育学研究科博士課程中退、東北大学より博士(教育学)取得。東京大学助手、経済協力開発機構コンサルタント、広島大学、大学評価・学位授与機構、東北大学准教授、名古屋大学准教授を経て現職。専門は、教育社会学。高等教育のマクロな国際比較を得意とする。

共に成長をめざす 国際協働を重視

本学は、世界で尊敬される「世界三十傑大学」の一員になるべく、国際化に取り組んでいます。これは、世界の人々が尊敬する30大学を挙げたとき、その中に入っている状態をめざすものです。なお、大学ランキングなどの順位を上げること自体は目標ではありません。世界共通の課題解決や指導的人材の育成に取り組む、その結果が世界に認められることを重視しています。

このように目標を捉える背景には、本学の成長戦略が関係しています。本学では、東日本大震災を転機に、教職員や学生が「社会とともにある大学」を強く意識するようになりました。そのため、社会に働きかけて産業を興し、社会全体を豊かにする中で本学も発展

する——共存共栄のエコシステムの構築を成長戦略の基本としています。国際戦略でも考え方は同じです。多様なパートナーと共に成長をめざす国際協働の深化を、基本戦略に活動しています。

「数を追う」「出島」的国際化からの脱却

パートナーと共に成長をめざすには、活動に実効性が求められます。これまで本学はネットワークの「拡大」を重視し、学術交流協定校数は^{*1}大学間252校、部局間493校に増えていました。しかし、この全てが有効に機能しているわけではありません。そこで、総長直下に置かれた国際戦略室が中心となり、全学視点で交流の戦略的意義や効果を精査し、ネットワークの「質」を高めることにしたのです。パートナーシップを結ぶ基準は、「共に成長が期待できるかどうか」。本学と似た環境でマネジメントや国際戦略のノウハウの共有がしやすい大学、^{*2}国際共同大学院プログラムで共に若手研究者の育成に取り組む大学、^{*3}研究大学強化促進事業でポストドクの派遣やクロスアポイントメントを行っている大学などを中心に、国際協働の深化を図っています。

研究大学・総合大学として国際協働を深化させるには、特定の国際部門が橋渡しをするだけの「出島」的な国際化では限界があります。すなわち、大学の全構成員が主体的に国際化に取り組む意識改革を進め、各部署が「自分たちにとっての国際化とは何か」「その達成に向けてどう行動するのか」のビジョンを共有し、自主的に行動する必要があります。

さらに、コロナ禍のように緊急対応が求められるときには、全学での明確なビジョンの共有も重要です。2020年7月に本学は、教育や研究、社会との共創、大学経営のあらゆる面でのオンライン化を強力に進める「コネクテッドユニバーシティ戦略」を発表しました。リアルとサイバーを融合すれば、これまで以上に世界とダイナミックにつながるはず。この取り組みの先に本学は、コロナ禍で顕在化した社会の分断や格差を越えてポスターレスかつインクルーシブに世界をつなぐ新たな大学像の確立を見据えています。

コロナ禍のような世界的課題に直面し、柔軟かつ戦略的な国際協働の重要性はますます高まっています。これからの歩みを止めることなく、世界と共に成長する国際化を進めていきます。

*1 2020年12月22日時点
 *2 東北大学が進める学位プログラムの一つ。強みを持つ9分野で、部局の枠を越え、海外有力大学と連携した共同教育を行う
 *3 文部科学省の支援事業。審査を経て対象となった機関の、研究マネジメント人材の確保、研究環境改革等の取り組みを支援する

取材・文／見山雄介 撮影／御堂義典



所在地／大阪府吹田市
 学生数／約30000人
 学部／法、文、経済、商、社会、政策創造、外国語、人間健康、総合情報、社会安全、システム理工、環境都市工、化学生命工
 大学院／法学、文学、経済学、商学、社会学、総合情報学、理工学、外国語教育学、
 心理学、社会安全、東アジア文化、ガバナンス、人間健康
 ▶THE世界大学ランキング2021／1001+位、同アジア版2020／401+位、同日本版2020／72位

withコロナの国際戦略・取り組み

	国際戦略	コロナ禍での取り組み
教育	「国際化戦略2014-2023」に基づき、異文化イメージ教育を展開。外国語に囲まれる空間や、ステップアップしながら多様な異文化体験プログラムに参加できるしるしを構築 ▶「英語で学ぶ」ことができるように、留学生と共に国際感覚を養う科目を英語で開講 ▶オンライン型国際協働学習「COIL」を導入 など	オンラインを活用した国際交流を積極的に推進 ▶短期語学研修の代替としてオンライン語学研修を実施 ▶オンライン留学に参加する学生に最大8万円を補助 ▶海外大学が提供するオンライン学習プログラムを学生に紹介。海外大学とは相互に学習プログラムを提供し合うなど、学習プログラムを介したチャネル開発を推進 など
研究	研究者個人の国際交流の促進。そのための支援の充実 ▶協定大学と研究者を派遣し合う「交換研究者」制度 ▶中国(上海、北京)、台湾(高雄)、タイ(バンコク)、ベルギー(ルーヴェン)にある海外サテライトを通じた、共同研究につながる情報の発掘 など	国際共同研究を推進するための支援の充実 ▶国際共同研究の推進を担当するURA (University Research Administrator) を配置(2019年度から) ▶招へい研究者の計画変更に伴う特別予算措置を実施 など
産学連携・社会連携	大学として、国際社会の一員として求められる社会貢献の実践 ▶学長の下に「KANDAI for SDGs推進プロジェクト」を設置し、SDGsをテーマにしたSDや教育プログラムを推進 ▶文部科学省委託事業「留学生就職促進プログラム」SUCCESS-Osaka ^{*2} では、留学生の就活や、就職後のキャリア形成のサポートを提供 など	大阪や関西への地域貢献を強化・深化 ▶「国際協力セミナー：SDGsの学び方」をオンラインで開催 ▶SUCCESS-Osakaでは、留学生対象のインターンシップフェアをオンラインで開催。日本企業と留学生が大阪・関西のSDGs課題解決に取り組むプロジェクトを実施 (SUCCESS-Osaka Future Design) など
広報	海外への情報発信を強化 ▶海外向けプレスリリースサイト「e-bulletin」を2018年12月に開設 ▶COILを世界中の大学に広めることを目的とした組織として、「グローバル教育イノベーション推進機構」を設置し、COILに関する情報やノウハウを国内外の大学に提供	各種イベントをオンラインで開催 ▶留学ガイダンスをオンラインで実施 ▶留学説明会をオンラインで実施(全世界、中国対象、台湾対象) ▶海外から入国できない学生に対する各種情報発信 ▶アメリカ教育協議会(ACE)と連携して教員向けのワークショップを開催するなど、COILに関する情報提供を強化

*2 関西大学、大阪大学、大阪府立大学、大阪府立大学の4大学が連携して運営 (https://www.kansai-u.ac.jp/Kokusai/SUCCESS-Osaka/)

自前主義の国際化からの脱却 大学間でのリソースの共有を推進



関西大学

オンラインを活用し、国内でできるグローバル教育にいち早く取り組んできた関西大学。その戦略と、オンライン活用のメリットについて聞く。



副学長 国際部長 文学部教授 藤田高夫

ふじたたかお ●1991年京都大学大学院文学研究科博士課程単位取得満期退学。1997年関西大学着任。1998年助教授、2005年教授。文学部長、東アジア文化研究科長、学校法人関西大学理事などを経て2020年より現職。専門は、東洋史、東アジア文化交渉学。

留学の呼び水としてのオンライン国際交流

コロナ禍で留学に行けない状況が続く中、海外大学とのオンライン協働学習*1(COIL)が注目を集めています。本学は、2014年から全国の大学に先駆けて取り組んでいます。COILは、ニューヨーク州立

大学が2004年に開発した学習手法で、ICTを活用した異国間の学生による協働学習です。すでに開設している科目に、この学習法を取り入れて実施するため、まずは学習内容に関連性のある互いの科目をマッチングし、科目担当者共同で授業設計を行ってから学習を始めます。もともとは、費用の問題などで留学に行きたくても行けない学生に、国際交流の機会を提供する目的で考案されたものです。しかし

これには、一人で海外に行く自信のない学生を行く気にさせる効果もあります。というのも、国内にいながら海外の学生と交流を深めるうちに学生は、自分のコミュニケーション能力に自信を付けていくからです。全て外国語で開かれて生活しなければならぬ留学に、おまけついでに留学は少なからずいます。本学は、その心理的ハードルを下げる手段としてオンラインによる国際交流を取り入れています。その意味では、本学にとってオンラインの活用は、留学に行けない期間の「代替」手段ではなく、留学に向けた「準備」を促すものだと言えるでしょう。

自前にこだわらずあるものを活用する

こうしたオンライン活用を推進してきた背景には、本学が国際化戦略の中で進める異文化イマージョン教育があります。イマージョンは「浸す」という意味。日常的に外国語が周囲から聞こえてきたり、異文化に接したりできる環境を学内につくり、その中に学生を浸すことで、異文化適応能力を育成したいと考えています。そうした環境を全て「自前」でつくり上げるには、膨大なコスト

がかかります。それに加え、自分たちの世界に閉じこもった閉じた国際化を進めることにもなりかねません。そこで本学では、すでにあるものを「共同」利用する国際化を重視しています。開設科目の共同実施で国際交流を実現するCOILの拡大は、世界の日常とつながる「開かれた国際化」を推進することになると考えています。COILの普及も自前主義で行っていません。COILを実施するには、自分が教えている科目と相性のよい「最適なパートナー」を、世界中から探し出す必要があります。それを教員個人が行うのは至難の業。専門家の助けや、マッチングのためのシステムが不可欠です。そこで、大学が共同で利用できる基盤やサポート体制の整備にも取り組んでいます。基盤は共同で利用し、授業は各大学が工夫するやり方が、一番効率的なのではないでしょうか。

私はコロナ禍により、人的国際交流において「現地ではできないこと」と、「国内でもできること」の仕分けが進んだと考えています。今後は、国際交流のやり方が大きく変わるはずですが、その変化を追い風にするためにも、自前ではなく共同の考えを大切にして、国際化を進めていきます。

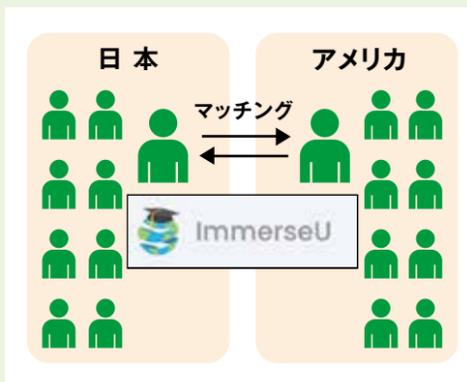
*1 Collaborative Online International Learning

注目! プラットフォームの共同利用でCOIL導入の負担を軽減

COILをいち早く導入し、その普及にも努めている関西大学が2019年3月に立ち上げたのが、日米間のCOILパートナーマッチングサイト「ImmerseU(イマースユー)」*3だ。COIL実施を検討する教員が、大学の規模、科目の特性などに見合うパートナーを探ることができる。加えて授業デザインなどに関する研修も対面／オンラインで提供しており、新たに関心を持った教員が取り組みやすい環境を整えている。

また、COILを通じた大学間連携を進める「JPN-COIL協議会」も組織した。各大学の関心はコロナ禍によって輪をかけて高まっており、夏以降に会員が急増。2020年12月4日現在で正会員は27大学に上る。語学力やコンピテンシーなど、COIL教育の成果を測定するツールの開発などに取り組んでいる。

COILパートナーマッチングサイト



*3 文部科学省「大学の世界展開力強化事業～COIL型教育を活用した米国等との大学間交流形成支援～」(2018年度)での取り組み